

な
那 珂 79

—那珂遺跡群第 171 次調査報告—



2019
福岡市教育委員会

な
那 珂 79

—那珂遺跡群第 171 次調査報告—



遺跡略号 NAK-171

調査番号 1708

2019
福岡市教育委員会

序

玄界灘に面して広がる福岡市は、大陸・半島と一衣帶水の関係にあり、古くから大陸・半島との窓口として発展し、市内には数多くの遺跡・埋蔵文化財が存在します。その一方で都市の発展に伴う開発行為により、やむを得ず失われる遺跡・埋蔵文化財が数多くあり、これらを後世に伝えることは、本市の重要な責務であります。本市教育委員会では、失われる遺跡については事前に発掘調査を行い、その記録保存に努めています。

本書は、博多区那珂1丁目における共同住宅建築に伴い実施した那珂遺跡群第171次発掘調査について報告するものです。

この調査では古墳周溝・住居跡・井戸等を検出するとともに、弥生時代から中世にかけての遺物が多数出土しました。これらは地域の歴史の解明のためにも重要な資料となるものです。今後、本書が文化財保護に対する理解と認識を深める一助になると共に、学術研究の資料としてもご活用いただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、事業主様をはじめとする関係者の方々には、発掘調査から本書の作成に至るまで、ご理解とご協力を賜りました。ここに心からの感謝を表します。

平成31年3月25日

福岡市教育委員会

教育長 星子 明夫

例言・凡例

1 本書は、博多区那珂1丁目地内における共同住宅開発事業に先だって、福岡市教育委員会が、平成29年度に発掘調査を実施した那珂遺跡群第171次調査の報告書である。

発掘調査及び整理報告書作成は、民間受託・国庫補助事業として実施した。

2 本書における作業分担は以下の通りである。

遺構実測	中國将祥
遺物実測	中國・野村美樹・林田憲三
拓本	中間千衣子
トレース	中國
遺構写真・遺物写真撮影	中國
ガラス玉分析	福岡市埋蔵文化財センター
執筆	第IV章：比佐陽一郎、その他：中國
編集	中國

3 本書で使用した方位は座標北であり、座標は世界測地系（第II系）を用いている。

4 遺跡略号はNAK-171(那珂遺跡群第171次調査)・遺構略号は、SC(竪穴住居跡)、SD(溝状遺構)、SE(井戸)、SK(土坑)、SP(ピット)、SX(不明遺構)とし、出土遺物へは「NAK171 SC001 枝番など」と注記を施してあるが、本文では、遺構略号は使わず、「1号住居跡」「1号土坑」などと記載する。

5 本書に関わる図面・遺物・写真等の管理は、全て福岡市埋蔵文化財センターで行う予定である。

6 本書で報告する調査の基本情報は下表の通りである。

遺跡名	那珂遺跡群	調査次数	171次	遺跡略号	NAK-171
調査番号	1708	分布地図図幅名	東光寺37	遺跡登録番号	020085
事業対象面積	1698.46m ²	調査対象面積	1150.00m ²	調査面積	1046.00m ²
調査期間	平成29年6月5日～平成29年9月22日			事前審査番号	28-2-934
調査地	福岡市博多区那珂1丁目806番1、807番1、808番1、809番1				

本文目次

第Ⅰ章 はじめに	1
(1) 調査に至る経緯	1
(2) 調査の組織	1
第Ⅱ章 遺跡の位置と環境	2
(1) 遺跡の位置と立地	2
(2) 遺跡の歴史的、地理的環境	2
第Ⅲ章 発掘調査の記録	7
(1) 調査の概要	7
(2) 遺構と遺物	7
1) 古墳周溝	7
2) 住居跡	11
3) 不明遺構	18
4) 井戸	18
5) 溝状遺構	22
6) 土坑	32
7) ピット	41
(3) まとめ	44
第Ⅳ章 自然科学分析	47

挿図目次

第1図 調査地周辺遺跡分布図 (S=1/25000)	3
第2図 那珂遺跡群調査地位置図 (S=1/4000)	4
第3図 那珂遺跡群第1 7 1次調査区位置図 (S=1/1000)	5
第4図 遺構配置図 (S=1/200)	6
第5図 古墳周溝 (S=1/2000・1/400・1/200・1/40)	8
第6図 古墳周溝出土遺物 (S =1/3)	9
第7図 古墳周溝出土遺物 (S =1/3・1/6)	10
第8図 1号住居跡 (S=1/60・1/30) 及び出土遺物 (S =1/3)	12
第9図 2号住居跡 (S=1/60・1/30) 及び出土遺物 (S =1/3)	13
第10図 3号住居跡 (S=1/60)	14
第11図 4号住居跡 (S=1/60) 及び出土遺物 (S =1/3)	15
第12図 5号住居跡 (S=1/60) 及び出土遺物 (S =1/3)	16
第13図 1号2号不明遺構 (S=1/60) 及び出土遺物 (S =1/3)	17

第14図	1号井戸 (S=1/40) 及び出土遺物 (S =1/3・1/4)	19
第15図	1号井戸出土遺物 (S =1/3)	20
第16図	1号井戸出土遺物 (S =1/3・1/6・1/4)	21
第17図	方形周溝状遺構 (S =1/100・1/40) 及び出土遺物 (S =1/3)	23
第18図	方形周溝状遺構出土遺物 (S =1/3・1/4)	24
第19図	区画溝 (S =1/100・1/40)	25
第20図	区画溝出土遺物 (S =1/3・1/4)	26
第21図	大溝2号3号溝 (S =1/150・1/100) 及び出土遺物 (S =1/3)	27
第22図	大溝2号3号溝出土遺物 (S =1/3・1/4・1/2)	28
第23図	9号10号溝 (S=1/40)	30
第24図	11号12号13号17号溝 (S=1/40)	31
第25図	4号土坑 (S=1/20)	32
第26図	1号土坑 (S=1/20) 及び出土遺物 (S =1/3・1/6)	33
第27図	2号3号土坑 (S=1/20) 及び出土遺物 (S =1/3)	34
第28図	7号土坑 (S=1/20) 及び出土遺物 (S =1/3)	36
第29図	7号土坑出土遺物 (S =1/3・1/4)	37
第30図	5号6号8号土坑 (S=1/20) 及び出土遺物 (S =1/3)	38
第31図	ピット全体図その1 (S=1/200)	39
第32図	ピット全体図その2 (S=1/200)	40
第33図	ピット図その1 (S=1/100)	41
第34図	ピット図その2 (S=1/100)	42
第35図	ピット図その3・その4 (S=1/100)	43
第36図	ピット出土遺物 (S =1/3)	44

写真目次

遺構写真1	51
遺構写真2	52
遺構写真3	53
遺構写真4	54
遺物写真1	55
遺物写真2	56
遺物写真3	57

第Ⅰ章 はじめに

(1) 調査に至る経緯

平成 29(2017) 年 1 月 27 日、共同住宅建設に先立ち、福岡市博多区那珂 1 丁目地内における埋蔵文化財の有無について、福岡市経済観光文化局文化財部埋蔵文化財課事前審査係に、照会文書が提出された（事前審査番号 28-2-934）。申請地は、周知の埋蔵文化財包蔵地である那珂遺跡群に含まれており、申請者に試掘調査の必要性がある旨を回答した。その後、平成 29 年 4 月 14 日に、試掘調査を行い、地表下 15cm ~ 60cm において遺構面が残っており、溝状遺構・ピット等の遺構が確認され、事前に埋蔵文化財の記録保存のための発掘調査が必要であるとの結論に達した。この成果を受けて、埋蔵文化財課では申請者と協議を行い、申請地面積 1698.46m² のうち遺構の破損が考えられる 1150m²について、一部に国庫補助金を適応し、発掘調査を行い、記録保存を図る事で協議が成立した。

発掘調査は、平成 29 年 6 月 5 日～9 月 22 日に行い、調査面積 1046m²、遺物はコンテナ約 10 箱分出土している。資料整理及び報告書作成は、翌平成 30(2018) 年度に行う事となった。

なお現地での発掘調査にあたっては、調査委託者を始めとする関係者の皆さまには多大なご理解と協力を賜りました。ここに記して謝意を表します。

(2) 調査の組織

調査を実施した平成 29 年度および資料整理・報告を実施した平成 30 年度の組織は以下の通りである。

調査委託：	個人	
調査主体：	福岡市教育委員会	
調査総括：	経済観光文化局文化財部埋蔵文化財課	課長 常松幹雄 (29 年度) 調査第 1 係長 吉武学 (29 年度)
整理報告総括：	経済観光文化局文化財活用部埋蔵文化財課	課長 大庭康時 (30 年度) 調査第 1 係長 吉武学 (30 年度)
調査庶務：	経済観光文化局文化財部文化財保護課	管理調整係 松尾智仁 (29 年度)
整理報告庶務：	経済観光文化局文化財活用部文化財活用課	管理調整係 松尾智仁 (30 年度)
事前審査：	経済観光文化局文化財部埋蔵文化財課	事前審査係長 本田浩二郎 (29 年度) 事前審査係 中尾祐太 (29 年度) 事前審査係 朝岡俊也 (30 年度)
調査担当：	経済観光文化局文化財部埋蔵文化財課	中國将祥 (29 年度)
整理報告担当：	経済観光文化局文化財活用部埋蔵文化財課	中國将祥 (30 年度)
調査作業：	岩永いさ子 今林利道 上原尚子 岡崎文一郎 唐島栄子 木原亮 久保サヨ子 小島君子 下田和弘 田中健 田中トミ子 塚副義一郎 綱嶋年朗 唐尚輝 中山洋治郎 野内聖司 原野容子 林田昌俊 牧之角健太 森一夫 山下宏昭	
整理作業：	上田結加 執行恭子 田中朋香 中間千衣子 萩尾朱美 原周生 森藤博文	(五十音順・敬称略)

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

(1) 遺跡の位置と立地

福岡平野とは、東を三郡山地、南を脊振山地によって囲まれ、北は玄界灘に向かって開口する博多湾に面した地の総称であり、多々良川等によって形成された糟屋平野、御笠川・那珂川流域に広がる狭義の福岡平野、室見川流域に広がる早良平野に細分できる。

那珂遺跡群は、狭義の福岡平野中央部、那珂川と御笠川に挟まれた春日丘陵から伸びる標高 5.0 ~ 9.0 m の洪積台地上に位置する。この洪積台地は、花崗岩風化礫層を基盤とし、その上層に阿蘇火碎流による八女粘土層と鳥柄ローム層の堆積により形成される。

(2) 遺跡の歴史的、地理的環境

那珂遺跡群（第1図1）は、北側に隣接する比恵遺跡群（第1図2）とは一連の遺跡群を構成すると考えられており、東西約0.8km、南北約2.4km、標高5.0m~9.0mをはかる同じ丘陵上に立地している。しかし浅い谷によって区分されており、那珂遺跡群の範囲としては東西約0.8km、南北約1.6kmと推定される。南側にも浅い谷を挟んで細長い台地が続いており五十川遺跡（第1図4）があり、さらに南には須玖岡本遺跡（第1図22）を中心とした遺跡群が広がる。また周辺の台地上には、麦野A・B・C遺跡（第1図15・16・17）、井尻B遺跡（第1図11）、諸岡A・B遺跡（第1図8・9）、高畠遺跡（第1図7）、板付遺跡（第1図6）があり、弥生時代から、中世にかけての集落や墓地が連綿と展開しており、特に弥生時代から古代にかけては、濃密な分布状態を示している。さらに台地周辺の低地では、水田が営まれていたと考えられ、板付遺跡、那珂君休遺跡（第1図5）などで、水田跡が検出されている。

那珂遺跡群では、これまでに170次の調査が行われ、丘陵上において連綿と営まれた旧石器時代から中世に至るまでの遺構・遺物が確認されている。

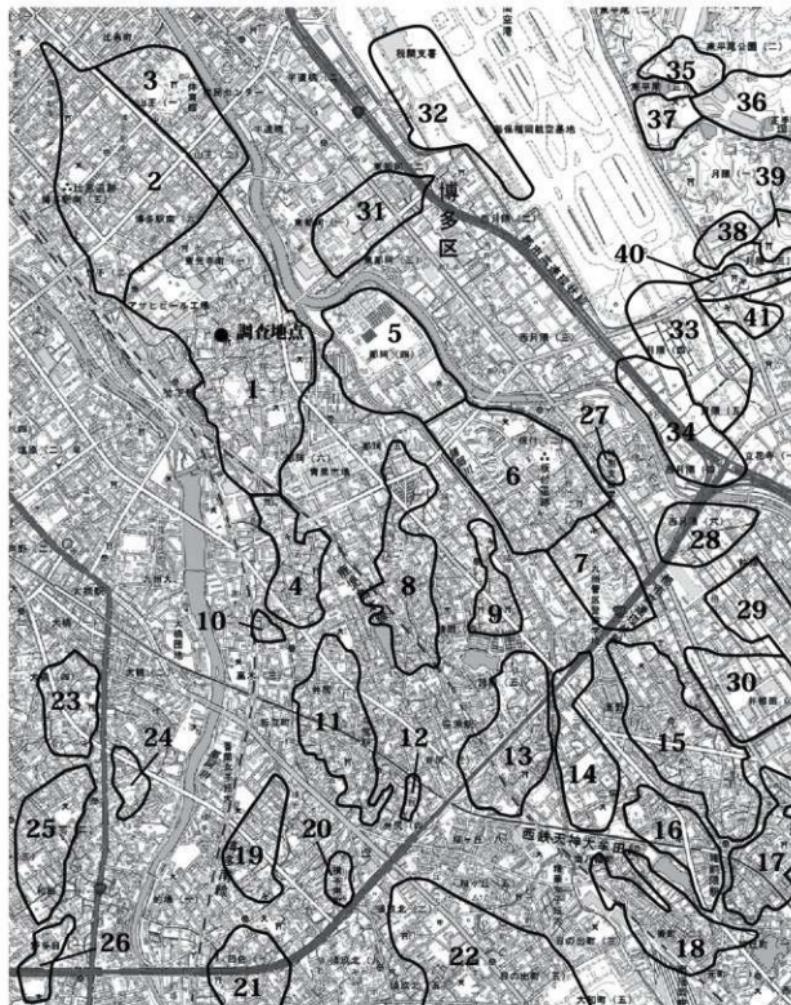
旧石器時代、縄文時代の明確な遺構は検出されていないが、ナイフ形石器などの旧石器時代の石器が出土しており、また縄文時代の遺物も断片的に出土しており、これらの時代においてのあり方については、今後の調査成果が待たれる。

弥生時代になると台地周辺部で住居や貯蔵穴などの遺構が拡がり、台地の南西縁では、二重環濠集落が確認されており、中期以降には、東西に横断する大規模な区画溝や大型の掘立柱建物、墳丘墓などの遺構が検出されている。

また弥生後期から古墳時代前期には、道路状遺構や福岡平野で最古期の前方後円墳である全長約86mの那珂八幡古墳を中心とした墓域や集落へと発展していく。

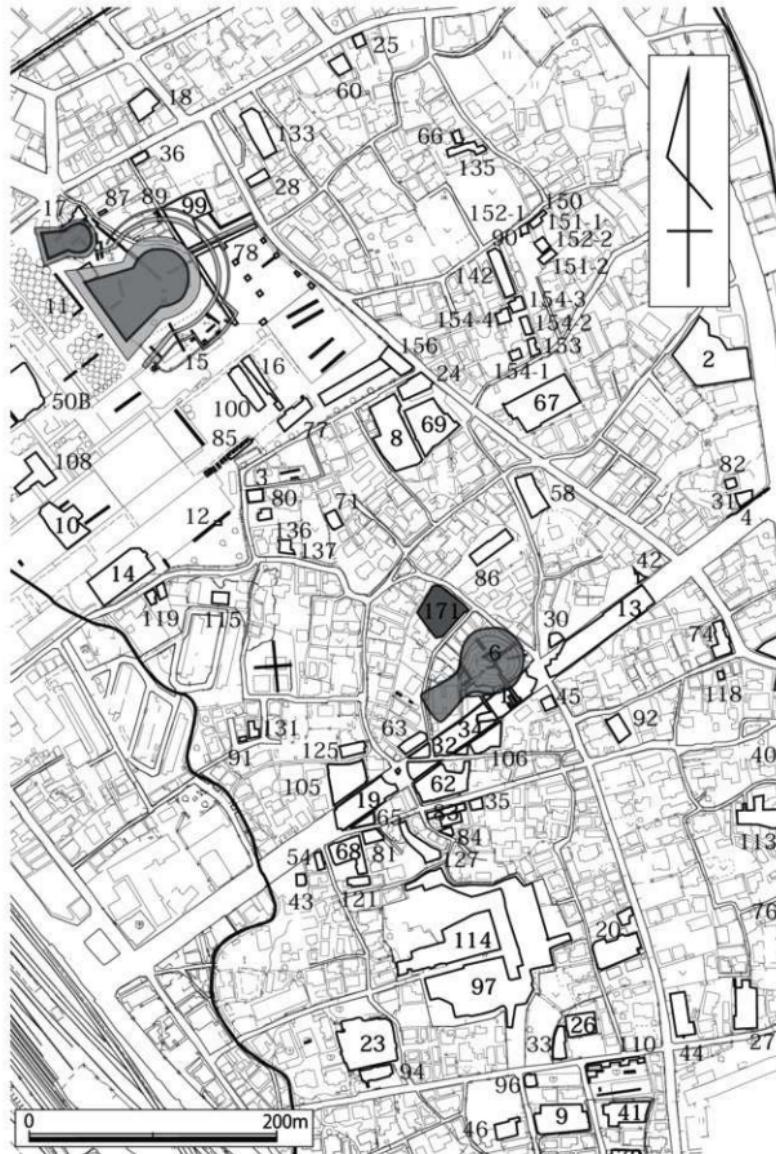
古墳時代後期以降になると大型の掘立柱建物や柵列が検出されており、「那津官家」を形成する官衙施設との関連が考えられ、古代には、正方位の溝や井戸などが検出されており、また初期瓦が出土しており、「那珂都衙」などの施設や寺院との関連が考えられる。

続く中世には、台地上に溝で区画された遺構が存在し、この時期まで福岡平野内において中心的な役割を担っていたと考えられる。



1. 那珂道跡群
 2. 比恵道跡群
 3. 山王道跡
 4. 五十川道跡
 5. 那珂君体道跡
 6. 板付道跡
 7. 高畠道跡
 8. 諸岡A道跡
 9. 諸岡B道跡
 10. 井尻A道跡
 11. 井尻B道跡
 12. 井尻C道跡
 13. 黄原道跡
 14. 三筑道跡
 15. 支野A道跡
 16. 支野B道跡
 17. 支野C道跡
 18. 南八幡道跡
 19. 横手道跡群
 20. 寺島道跡
 21. 日佐道跡
 22. 筑波・同木道跡
 23. 大槻道跡
 24. 三宅B道跡
 25. 三宅C道跡
 26. 野多日A道跡群
 27. 板付東道跡
 28. 井相田D道跡
 29. 仲島道跡
 30. 久保岡道跡
 31. 東那珂道跡
 32. 雀居道跡
 33. 下月隈C道跡
 34. 立花寺B道跡
 35. 原田大谷道跡
 36. 原田大谷道跡
 37. 宝満尾道跡
 38. 天神森道跡群
 39. 下月隈A道跡群
 40. 下月隈B道跡群
 41. 上月隈道跡群
- 171次調査地点

第1図 調査地周辺道跡分布図 (S = 1/25000)



第2図　那珂遺跡群調査位置図 (S = 1/4000)



第3図 那珂遺跡群第171次調査区位置図 (S = 1/1000)



第4図 遺構配置図 ($S = 1/200$)

第Ⅲ章 発掘調査の記録

(1) 調査の概要

那珂遺跡群は、福岡平野の那珂川と御笠川に挟まれた洪積丘陵に立地する遺跡群である。今回の第171次調査対象地は、那珂遺跡群の中央部、那珂八幡古墳の北西に位置し、遺構検出面の標高は約8.5～8.2mである。周辺では58・68次調査において集落跡が確認されている。

発掘調査は、平成29年6月5日に、まず測量機器にて世界測地系による杭の設定等を行い、翌6日から重機による表土掘削を開始した。調査対象地の北側、約670mを第I区とて重機による表土剥ぎ取り後、人力による遺構検出作業、遺構の掘り下げ、1/20縮尺の遺構図の作成、遺物取り上げ、写真撮影等を行い、8月10日に高所作業車から第I区の全景を撮影し、22日に第I区の調査を終了した。その後8月23日より第I区の埋め戻し、ならびに第II区の表土掘削を開始し、第I区の調査と同じ手順で作業を進め、9月20日に高所作業車から第II区の全景を撮影し、22日に全作業を終了した。

今回の調査で確認された遺構は、古墳周溝・住居跡・方形周溝状遺構・溝・井戸・土坑・ピットなどがあり、時代は弥生時代から中世にかけてである。出土遺物量は、コンテナボックス10箱である。

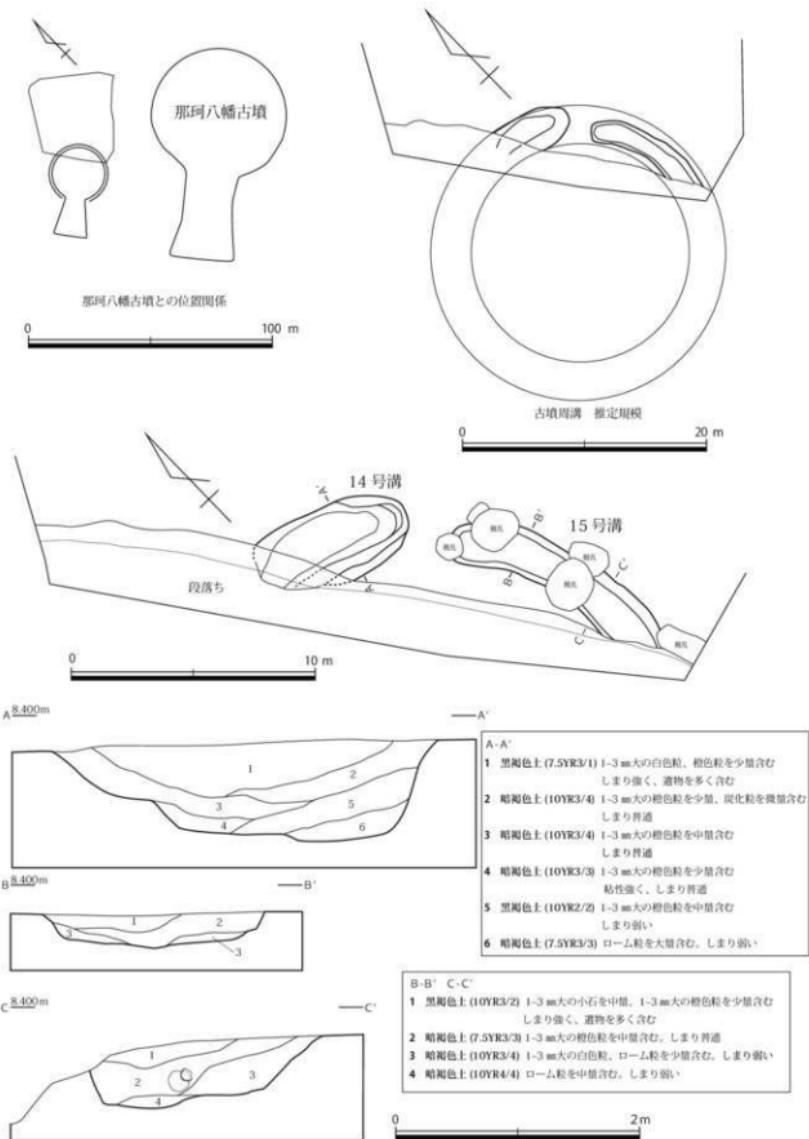
(2) 遺構と遺物

1) 古墳周溝

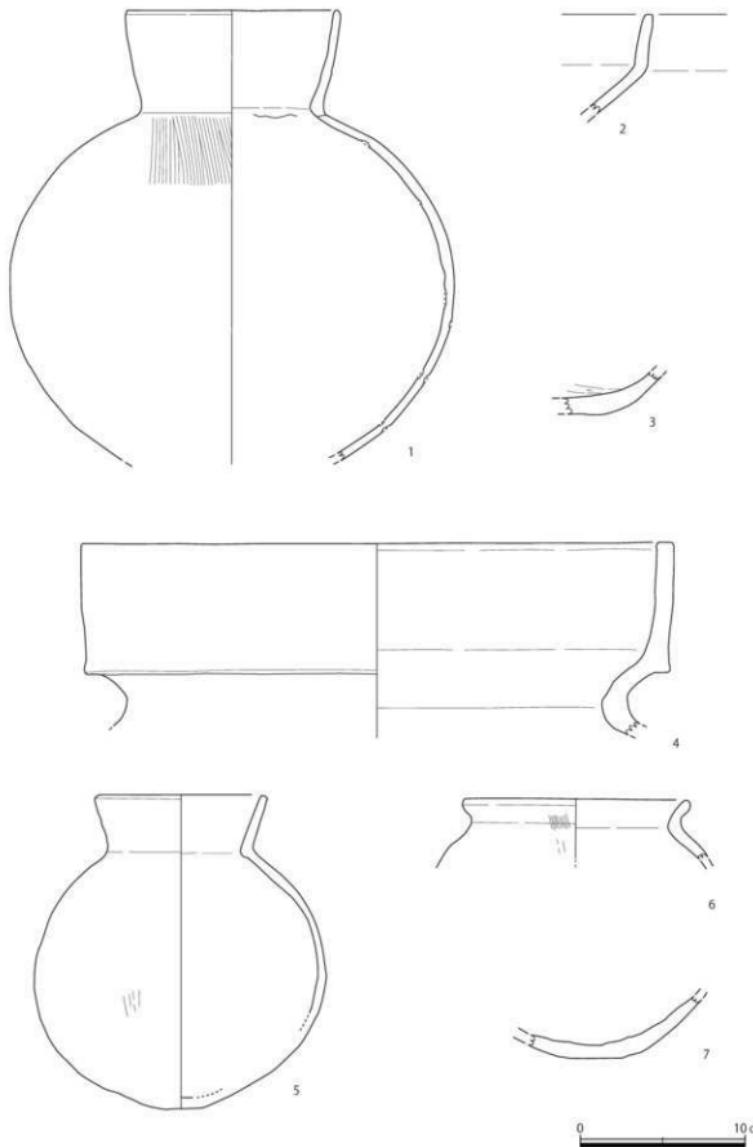
調査区南側から検出された14号溝と15号溝からなる古墳周溝である。南側の大半を後世の掘削による削平を受けており、残存率は2割程度である。推定される規模は周溝下端内法で約18m前後、周溝を含むと約24m前後である。14号溝は深さ85cm程あり古墳主体部に向けては緩やかに立ち上がる。15号溝の深さは、33～55cmと14号溝よりは浅い作りとなっている。

古墳の形状は残存率が2割程度である事から、推測でしかないが那珂八幡古墳との位置関係からすると円墳というよりは前方後円墳の可能性が高いと考えられる。時期は出土遺物から古墳時代初頭と考えられる。

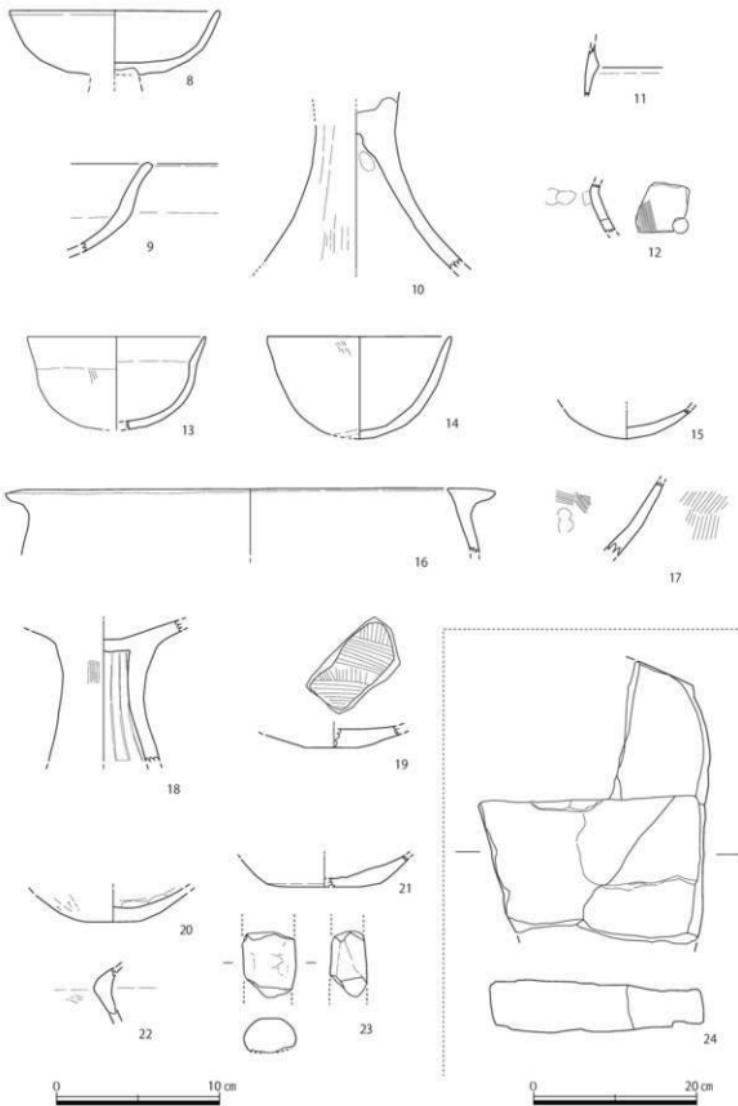
出土遺物（第6図・第7図）1～15は土師器。1は壺。口径12.8cm、残存高27.3cm。内面は口縁部から頸部にかけてヨコナデ、頸部から胴部にかけては板状工具によるナデ。外面は口縁部から頸部にかけてヨコナデ、頸部から胴部にかけては摩滅が激しく調整は不明だが、頸部付近にはハケ目が残る。2は壺の口縁部。口径不明、残存高6.0cm。内外面共に摩滅が激しく調整不明。3は壺の底部。底径不明、残存高2.5cm。内外面共にケズリ。4は二重口縁壺の口縁部。口径36.0cm、残存高11.6cm。内外面共にヨコナデ。外面には赤色顔料が施されている。5は甕。口径10.4cm、高さ19.0cmのほぼ完形品。内面は口縁部から頸部にかけてヨコナデ、頸部から胴部にかけては全体的に煤が付着しており調整は見にくいがケズリか。外面は摩滅が激しく調整不明。一部にハケ目が残る。また底部には煤が付着し一部赤く変色している。6は壺の口縁部。口径13.4cm、残存高3.6cm。内面はハケ。外面は



第5図 古墳周溝 ($S = 1/2000 \cdot 1/400 \cdot 1/200 \cdot 1/40$)



第6図 古墳周溝出土遺物 (S = 1/3)



第7図 古墳周溝出土遺物 (S = 1/3・1/6)

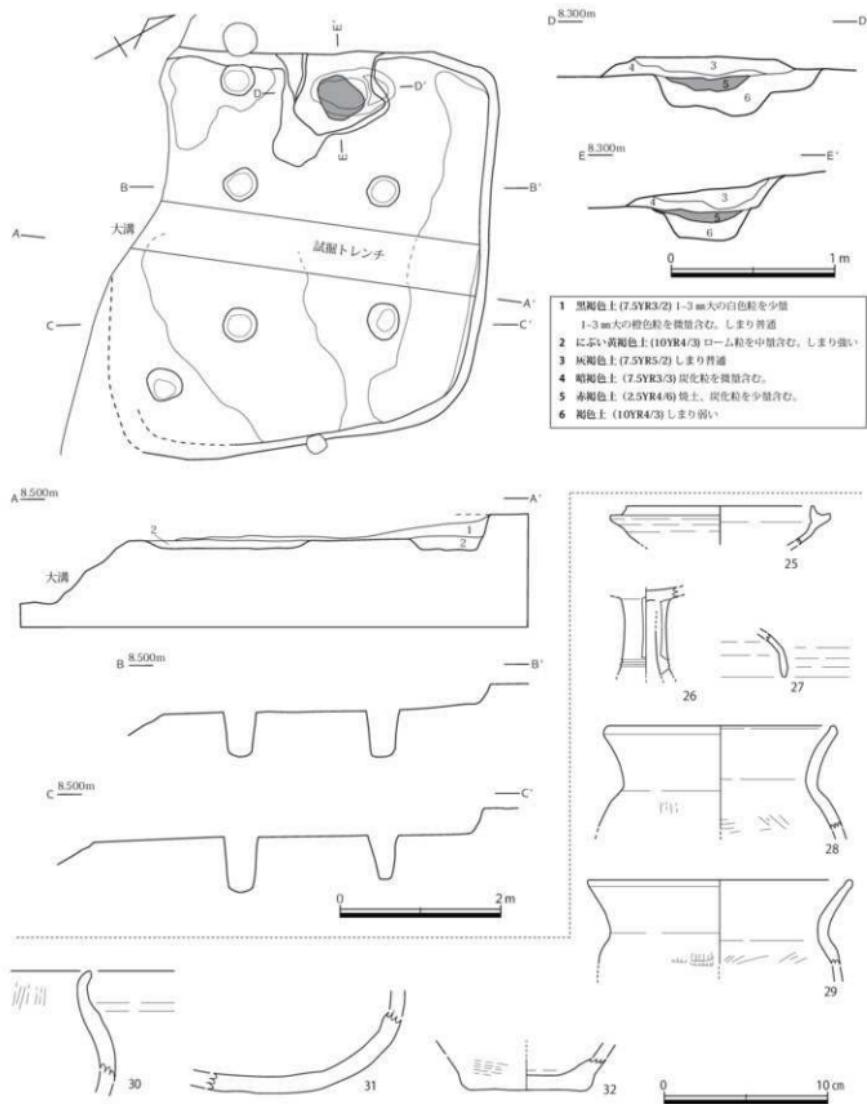
摩滅が激しく調整不明。頸部付近に一部ハケ目が残る。7は壺の底部。残存高3.7cm。内面ナデ。外面は摩滅が激しく調整不明。ハケ後ナデか。一部に煤が付着。8は高环の环部。山陰系の土器。口径12.8cm、残存高3.9cm。内面はナデ。外面は摩滅が激しいがナデか。9は高环の环部。口径不明、残存高5.4cm。内面はナデ。外面は摩滅が激しいがナデか。10は高环の脚部。残存高9.6cm。脚部内面はナデ、一部指圧痕あり。外面はタテハケ後ミガキか、また一部に丹塗りが残る。11は二重口縁壺の口縁部。残存高3.0cm。内外面共に摩滅が激しく調整不明。12は高环の脚部。残存高3.0cm。穿孔あり。内面はナデ、指圧痕あり。外面は細かいハケ目。13は鉢。口径13cm、残存高5.6cm。内外面共に摩滅が激しく調整不明だが、外面には一部ハケ目が残る。14は鉢。口径11.2cm、残存高6.3cm。内面は摩滅が激しいがナデか。外面は摩滅が激しいがハケか。底部には粗いケズリが残る。15は鉢の底部。残存高1.8cm。内外面共に摩滅が激しく調整不明だがナデか。16～23は弥生土器。16は甕の口縁部。口径30.0cm、残存高3.0cm。内外面共に摩滅が激しく調整不明だが、外面はヨコナデか。17は壺の底部片。残存高5.0cm。内面はハケ目、一部指圧痕あり。外面はタタキ。18は高环の筒部。残存高8.6cm。内外面共に摩滅が激しく調整不明だが、外面には一部ハケ目が残る。19は壺の底部。底径3.0cm、残存高1.3cm。内面はハケ目。外面は摩滅が激しく調整不明だがハケか。20は甕の底部。残存高2.0cm。内面はナデ、指圧痕あり。外面はケズリ。21は甕の底部。底径7.0cm、残存高1.9cm。内外面共に摩滅が激しく調整不明。22は甕の頸部。残存高2.8cm。内面は頸部にかけてハケ後ナデ、頸部から胴部にかけてはナデ。外面はナデ。23は青銅器の中子（中型）。最大長4.0cm、最大幅2.1cm、厚さ2.1cm。全体的に表面は熱を受けている。24は石棺の一部か。最大長35.2cm、最大幅28.8cm、厚さ6.7cm。石材は安山岩。

2) 住居跡

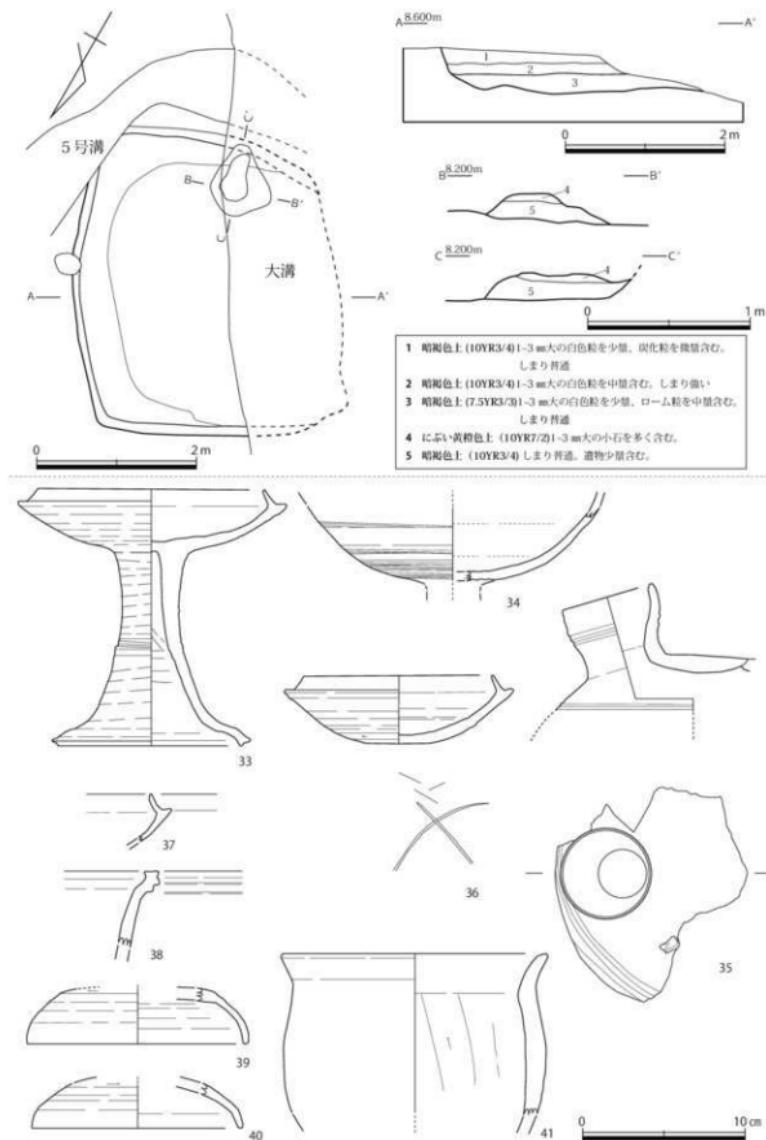
1号住居跡（第8図）

調査区西側で検出された北西壁沿いに竈を有する4本主柱の竪穴住居跡である。住居規模は、南側1/5程度が後世の掘削による削平を受けているが、一辺5m前後の方形を呈する。遺構上部は掘削により削られており、正確な深さはわからないが、現状約20cm程が残る。1層が埋土で2層が貼り床である。竈の残りは良くないが、灰褐色粘土層の下に、掘り込みがあり一部に比熱を受けた土が残る。時期は出土遺物から飛鳥時代前半から中頃と考えられる。

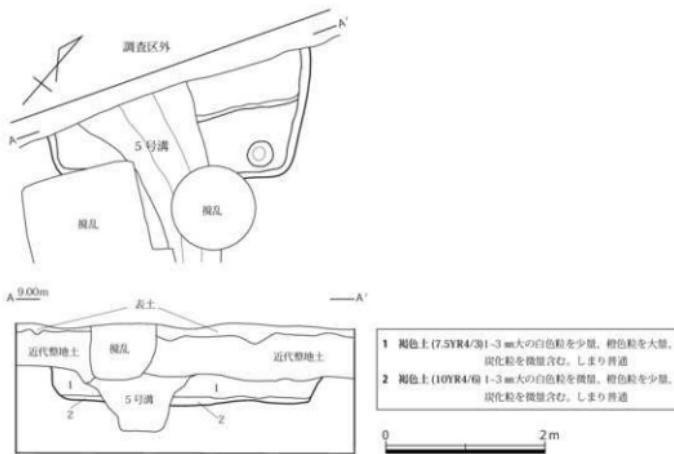
出土遺物（第8図）25～27は須恵器。25は壺身。口径11.4cm、受部径13.6cm、残存高2.3cm。内外面共に回転ナデ。26は高环脚部。残存高5.1cm。透かしが3ヶ所入るがいずれも貫通していない。27は壺蓋。残存高2.6cm。内外面共に回転ナデ。28～31は土師器。28は甕の口縁部。口径13.9cm、残存高6.2cm。内面は口縁部から頸部にかけてナデ、頸部から胴部にかけてはハケ後ナデ。外面は口縁部から頸部にかけてナデ、頸部から胴部にかけてはハケ後ナデ。29は甕の口縁部。口径16.0cm、残存高5.0cmで。内面は口縁部から頸部にかけてヨコナデ、頸部から胴部にかけてはハケ後ナデ。30は甕の口縁部。口径不明、残存高6.7cm。内外面共に摩滅が激しいが、内面には一部ハケ目が残る。31は甕の底部。残存高は5.0cm。内面はナデ。外面は摩滅が激しく調整不明。32は弥生土器。甕の底部。底径7.2cm、残存高1.9cm。



第8図 1号住居跡 ($S = 1/60 \cdot 1/30$) 及び出土遺物 ($S = 1/3$)



第9図 2号住居跡 (S = 1/60・1/30) 及び出土遺物 (S = 1/3)



第10図 3号住居跡 (S = 1/60)

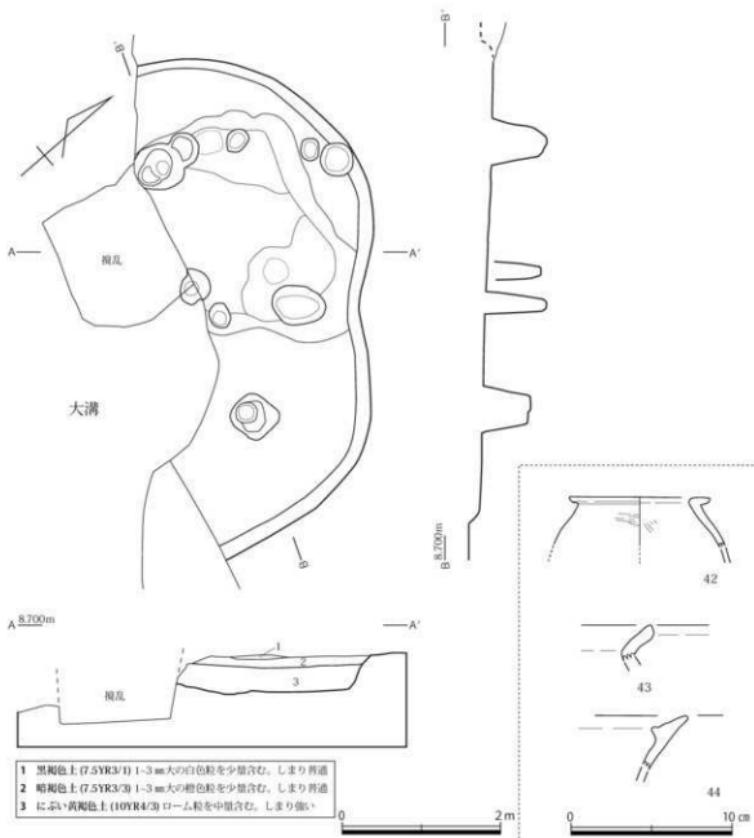
2号住居跡（第9図）

調査区西側で検出された南壁沿いに竈を有する竪穴住居跡である。住居規模は、西側1/2を大溝に切られているが、一辺3.7m前後、深さ30cmの方形を呈する。1.2層が埋土で3層が貼り床である。竈の残りは不良。時期は出土遺物から飛鳥時代前半と考えられる。

出土遺物（第9図）33～40は須恵器。33は有蓋高杯。口径14.0cm、受部径16.6cm、残存高15.8cm。内面はナデ。外面は回転ナデ、脚部内面はナデ。34は高杯環部。口径不明、残存高4.5cm。内面は回転ナデ。外面は回転ナデ後カキメ。35は平瓶。口径5.7cm、残存高7.7cm。内面は口縁部から頸部にかけて回転ナデ、頸部から胸部にかけてはナデ。外面は回転ナデ。36は壺身。口径11.7cm、受部径14.0cm、高さ4.1cm。内面は回転ナデ。外面は回転ナデ、底部のみ回転ケズリ後静止ケズリ。ヘラ記号あり。37は壺身。口径不明、残存高2.9cm。内外面共に回転ナデ。38は甕。口径不明、残存高4.7cm。内外面共に回転ナデ。39は壺蓋。口径13.6cm、残存高3.4cm。内面は回転ナデ。外面は回転ナデ、頭頂部は回転ヘラケズリ。40は壺蓋。口径13.0cm、残存高2.6cm。内外面共に回転ナデ。41は土師器の甕。口径16.2cm、残存高9.7cm。内面はケズリ。外面は摩滅激しく調整不明。

3号住居跡（第10図）

調査区北西側で検出された竪穴住居跡である。住居規模は、西側1/2が調査区外、遺構中央を溝に切られているが、一辺3.2m前後、深さ15cmの方形を呈すると思われる。1層が埋土で2層が貼り床である。東部の一角が一段高くなっているベッドを有していると考えられる。遺物は土師器の破片のみで図化に耐えうるものは出土しなかった。時期は周辺の1号2号住居跡との関連から飛鳥時代と考えられる。

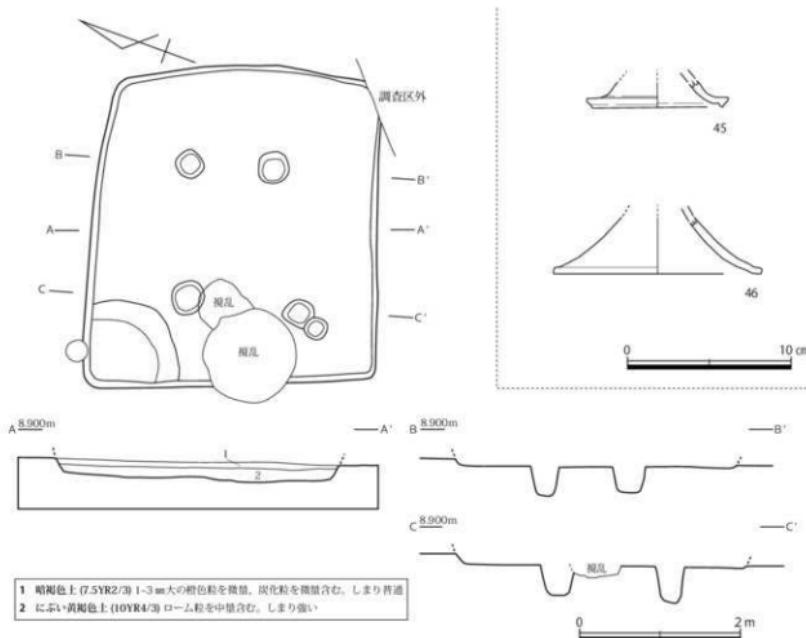


第11図 4号住居跡 ($S = 1/60$) 及び出土遺物 ($S = 1/3$)

4号住居跡 (第11図)

調査区中央部で検出された竪穴住居跡である。住居規模は、南側1/2が大溝と1号不明遺構に切られているが、直径が約6.2m前後、深さ15cmの円形を呈する。主柱穴は2つ検出されているが、4本主柱であると考えられる。1.2層が埋土で3層が貼り床である。時期は出土遺物から弥生時代後期初頭と考えられる。

出土遺物(第11図)42~44は弥生土器。42は甌。口径8.6cm、残存高3.0cm。内外面共に摩滅が激しいが、一部にハケ目が残る。また外面頸部に一部丹塗りが残る。43は甌。口径不明、残存高2.1cm。内外面共に摩滅が激しく調整不良。44は甌の口縁部。残存高2.3cm。内外面共に摩滅が激しく調整不良。

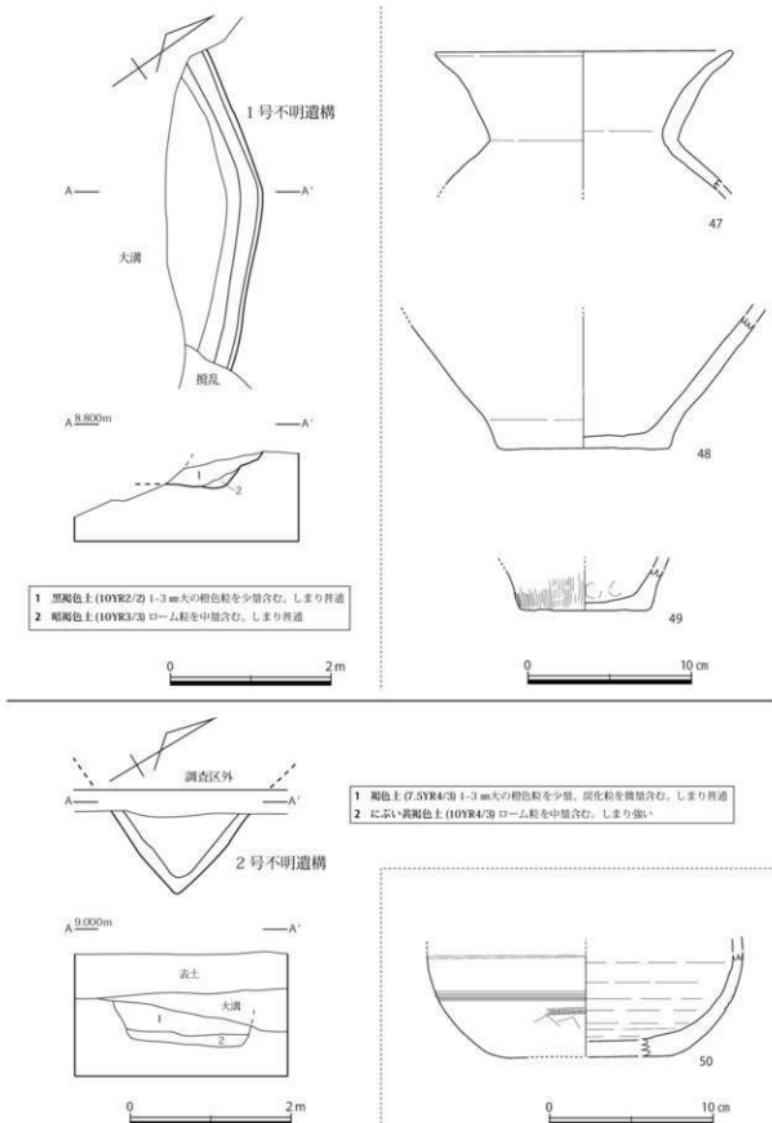


第 12 図 5 号住居跡 ($S = 1/60$) 及び出土遺物 ($S = 1/3$)

5号住居跡（第 12 図）

調査区東側で検出された 4 本主柱の竪穴住居跡である。住居規模は、南東隅が調査区外になり、一部を搅乱に切られているが、3.7 m × 3.5 m の方形を呈する。遺構上部は後世の掘削により削られしており、正確な深さはわからないが、現状約 10cm 程が残る。1 層が埋土で 2 層が貼り床である。時期は出土遺物から飛鳥時代前半から中頃と考えられる。

出土遺物（第 12 図）45 は須恵器の高環脚裾部。裾径 8.0cm、残存高 1.6cm。内外面共に回転ナデ。46 は土師器の高環脚裾部。裾径 12.8cm。残存高 3.4cm。内外面共に摩滅が激しく調整不明。



第13図 1号2号不明遺構 ($S = 1/60$) 及び出土遺物 ($S = 1/3$)

3) 不明遺構

1号不明遺構（第13図）

調査区中央部で検出された遺構である。南西側大部分を大溝に切られており調査時は不明遺構としたが竪穴住居跡の一部と考えられる。住居規模は不明だが円形と推測される。深さは約45cm。時期は出土遺物48・49から弥生時代後期初頭と考えられる。

出土遺物（第13図）47は土師器の壺。口径18.0cm、残存高8.4cm。内外面共に摩滅が激しく調整不明。後世の流れ込み遺物。48は弥生土器の甕の底部。底径10.5cm、残存高8.0cm。内外面共に摩滅が激しく調整不明。49は弥生土器の甕の底部。底径8.0cm、残存高2.5cm。内面は指押さえの後ナデ。外面はハケ。底部はナデ。

2号不明遺構（第13図）

調査区西側で検出された遺構である。西側大部分が調査区外となっており調査時は不明遺構としたが竪穴住居跡の隅と考えられる。住居規模は不明、深さは約50cm。時期は出土遺物から飛鳥時代前半と考えられる。

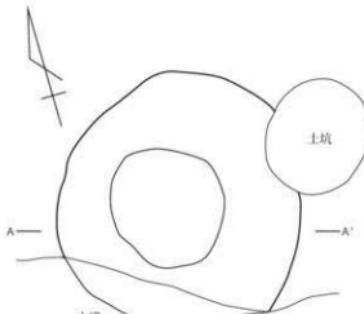
出土遺物（第13図）50は須恵器の壺。残存高6.2cm。内面は回転ナデ、外面はハケ。底部はナデ。

4) 井戸

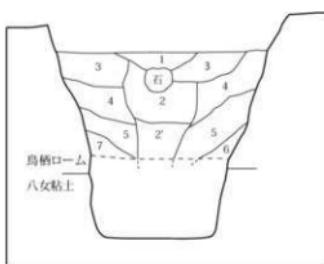
1号井戸（第14図）

調査区中央部で検出された井戸である。南側の一部を大溝に、東側を2号土坑に切られているが、規模は2m×2mの円形状で、深さは検出面より1.8m。水の湧水点は鳥栖ロームと八女粘土の境がある標高7.0m地点と思われる。検出面より一段下げをした段階で、遺物55・59・60が出土している。遺物65は井戸最下層で検出されている。井戸枠等の明確な痕跡は確認されなかったが、2層・2層が井戸枠内堆積の土で、4～7層が掘方の土である。時期は出土遺物から飛鳥時代前半から中頃と考えられる。

出土遺物（第14・15・16図）51～60は須恵器。51は壺。完形だが口縁に歪みがあり梢円形状となる。口径11.9cm、受部径13.8cm、器高4.1cm。内面はヨコナデ。外面はヨコナデ、底部は回転ヘラケズリ。外底に線刻あり。52は壺。口径11.0cm、受部径13.0cm、残存高4.0cm。内面はヨコナデ。外面はヨコナデ、底部は回転ヘラケズリ。外底に線刻あり。53は壺。口径10.8cm、受部径13.1cm、器高3.5cm。内面は口縁部から底部にかけてヨコナデ、内底部はナデ。外面は口縁部から底部にかけてヨコナデ、外底部は回転ケズリ。54は壺。口径10.6cm、受部径12.8cm、残存高3.4cm。内面は口縁部から底部にかけて回転ナデ。外面は口縁部から底部にかけて回転ナデ、外底部は回転ケズリ。55は壺。口径8.8cm、器高8.5cm。内面はヨコナデ。外面は口縁部から胴部にかけてヨコナデ後カギ目。胴部から底部にかけてはヘラケズリ。口縁部下・胴部・外底に線刻あり。56は壺。残存高14.2cm。内面は同心円状の当て具によるタタキ。外面はタタキ。57は壺。口径16.0cm、残存高5.6cm。内面は口縁部から頸部にかけて回転ナデ、粘土の継ぎ目が残る。外面は口縁部から頸部にかけ

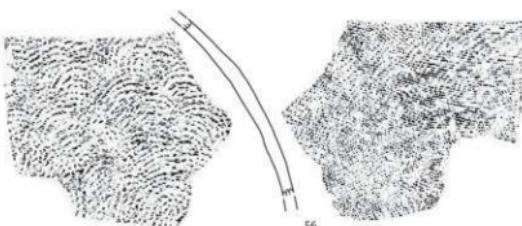


A 8,500m



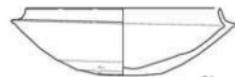
- 1 黒褐色土 (10YR3/2) 1-3mm大的褐色粒を中量含む。しまり強い。
- 2 暗褐色土 (10YR2/3) ローム粒を中量含む。しまり弱い。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒を小量含む。しまり弱く、粘性強い。
- 3 暗褐色土 (10YR2/4) 1-3mm大的褐色粒を微量含む。ローム粒を大量含む。しまり普通。
- 4 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒を大量含む。しまり弱い。
- 5 細色土 (10YR4/6) 地山のロームブロックを大量含む。しまり普通。
- 6 細色土 (10YR4/6) 地山のロームブロックを大量含む。しまり強い。
- 7 暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム粒を中量含む。しまり弱い。

0 1m



56

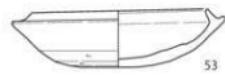
0 10 cm



51



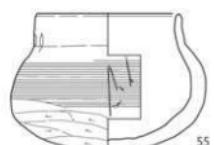
52



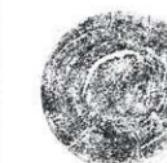
53



54

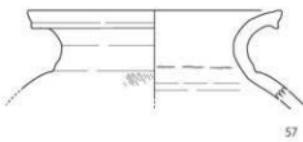


55



10 cm

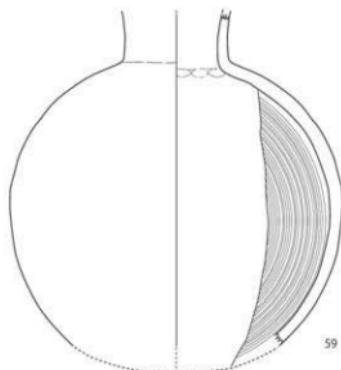
第14図 1号井戸 (S = 1/40) 及び出土遺物 (S = 1/3・1/4)



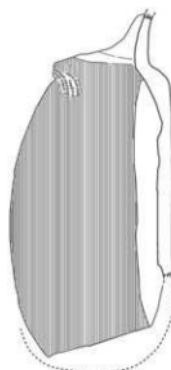
57



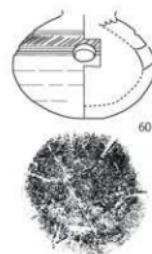
58



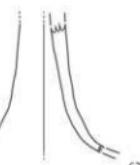
59



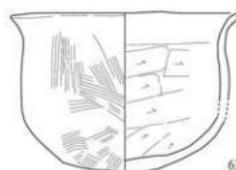
60



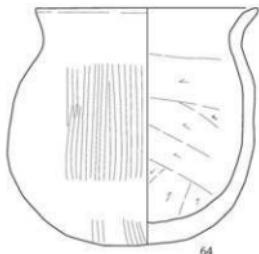
61



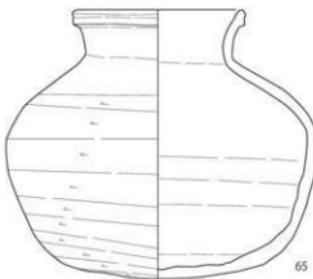
62



63

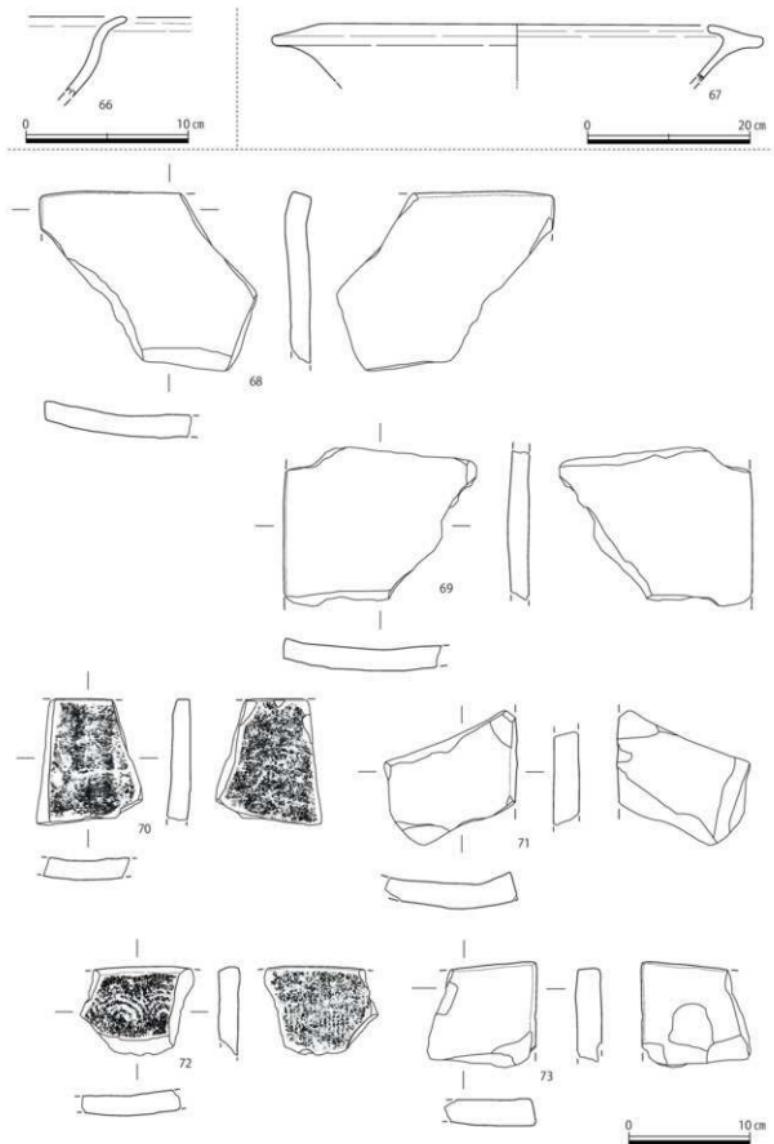


64



65

第15図 1号井戸出土遺物 (S = 1/3)



第16図 1号井戸出土遺物 (S = 1/3・1/6・1/4)

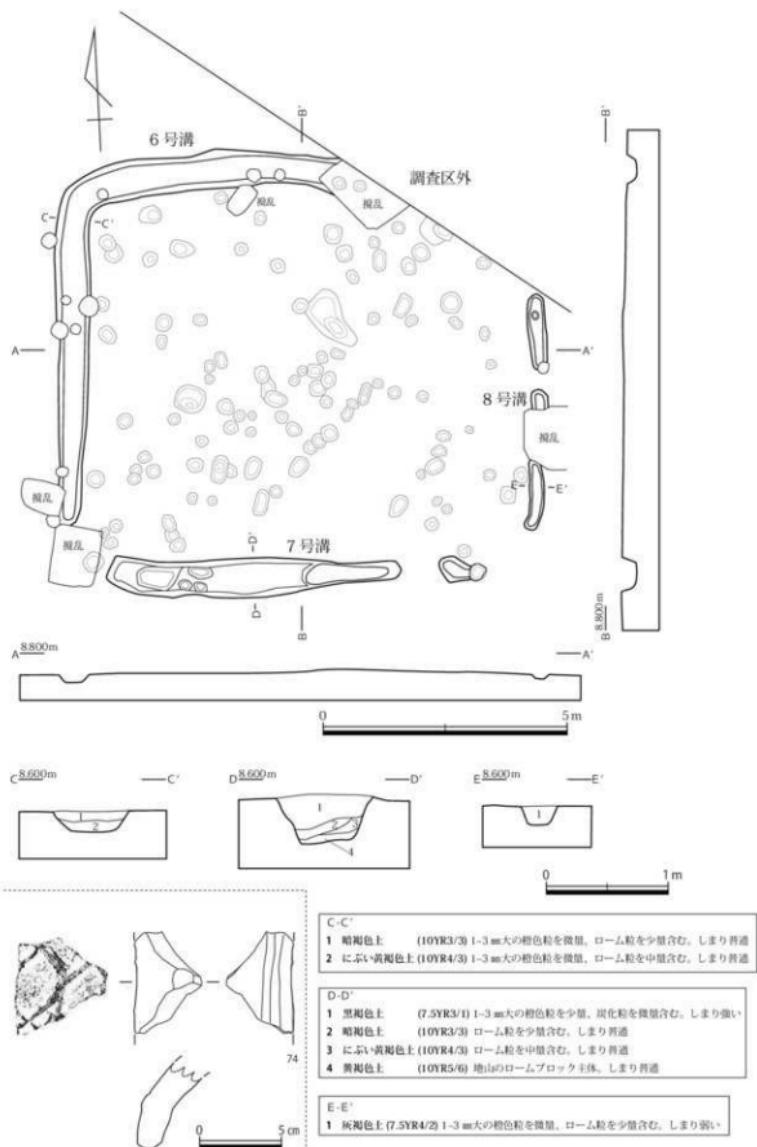
けて回転ナデ、胴部はタタキ。58は、坏蓋。口径 15.0cm、器高 5.1cm。内面は回転ナデ、天井部はナデ。外面は回転ナデ、天井部は回転ヘラケズリ。59は提瓶。残存高 20.8cm。内面は頸部にかけて指押さえの後ヨコナデ、胴部はナデ後ヨコナデ。外表面は頸部にかけてヨコナデ。胴部は同心円状のカキ目、一部に格子状のタタキ痕あり。外裏面はナデ後回転ケズリ。60は甕（ハソウ）。残存高 6.5cm。穿孔は直径 1.0cm。内面は調整不明。外面はヨコナデ後斜刻み、底部には線刻あり。61～65は土師器。61は甕の底部。底径 4.6cm、残存高 2.0cm。内外面共に摩滅が激しく調整不明。62は高坏の脚部。残存高 8.0cm。内面はナデ。外面は摩滅が激しく調整不明だが、一部にヨコナデが残る。63は鉢。口径 12.2cm、器高 10.0cm。内面は口縁部から頸部にかけてヨコナデ、胴部から底部にかけては板状工具によるケズリ。外面は口縁部から頸部にかけてヨコナデ、胴部から底部にかけてはハケ目。64は壺。口径 14.0cm、器高 15.0cm。内面は口縁部から頸部にかけてヨコナデ、胴部から底部にかけては板状工具によるケズリ。外面は口縁部から頸部にかけてヨコナデ、胴部から底部にかけてはハケ目。65は壺（赤焼土器）。口径 10.5cm、器高 17.0cm。内面は口縁部から底部にかけてヨコナデ。外面は口縁部から頸部にかけてヨコナデ、胴部から底部にかけてはヘラケズリ。66、67は弥生土器。66は壺の口縁部。残存高 6.5cm。内外面共に摩滅が激しく調整不明。67は甕の口縁部。口径 60.6cm、残存高 7.0cm。内外面共に摩滅が激しく調整不明。68～73は初期瓦。68は長さ 14.0cm、幅 18.0cm、厚さ 1.8cm。凹面凸面共に摩滅が激しく調整不明。69は長さ 13.1cm、幅 16.0cm、厚さ 1.7cm。凹面凸面共に摩滅が激しく調整不明。70は長さ 10.5cm、幅 8.8cm、厚さ 1.5cm。凹面凸面共に布目が残る。71は長さ 11.2cm、幅 11.0cm、厚さ 2.1cm。凹面凸面共に摩滅が激しく調整不明。72は長さ 7.4cm、幅 9.6cm、厚さ 1.7cm。凹面には同心円状の当て具によるタタキ。凸面は竹状の当て具によるタタキ。73は長さ 8.7cm、幅 9.0cm、厚さ 2.3cm。凹面凸面共に摩滅が激しく調整不明。

5) 溝状遺構

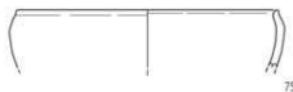
方形周溝状遺構（第 17 図）

調査区北側で検出された方形周溝状の遺構である。規模は溝の内径で 9.0 m × 7.7 m の長方形型を呈する。また溝も含めると 10.0 m × 9.1 m である。溝の深さは、深い所で約 40cm、浅い所で約 18 cm 程度である。方形状の区画内にはピットも多数見受けられるが、掘立柱建物を形成するピット列は確認できず、用途は不明であるが、南北軸に沿って作られている。方形周溝状遺構の西側で検出された溝で構成される区画溝と対応する遺構であるとも考えられる。溝から出土した遺物は少ないが、時期は出土遺物から飛鳥時代中頃と考えられる。

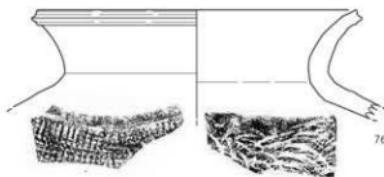
出土遺物（第 17・18 図）74は丸瓦片。長さ 6.2cm、幅 5.3cm、厚さ 1.9cm。凹面は、摩滅が激しく調整不明だが、布目か。凸面には格子目のタタキが残る。時代は奈良時代以降、後世の流れ込みの遺物。75～77は須恵器。75は鉢。口径 16.0cm、残存高 3.5cm。内外面共にヨコナデ。76は甕。口径 19.4cm、残存高 6.6cm。内面は口縁部から頸部にかけてヨコナデ、胴部は同心円状の当て具によるタタキ。外面は口縁部から頸部にかけてヨコナデ、胴部はタタキ。77は甕。残存高 11.4cm。内面は頸部にかけてヨコナデ、胴部は同心円状の当て具によるタタキ。外面は頸部にかけてヨコナデ後二条の沈線。胴部は継方向の平行タタキ。78は砥石。最大長 13.1cm、最大幅 7.4cm、厚さ 3.9cm。銅戈などの鋤型を砥石として再利用した可能性あり。石材は砂岩。79は磨り石。最大長 12.8cm、最大幅 9.5cm、厚さ 6.5cm。全面に磨りの痕跡あり。石材は細粒凝灰岩か。



第17図 方形周溝状遺構 ($S = 1/100 \cdot 1/40$) 及び出土遺物 ($S = 1/3$)

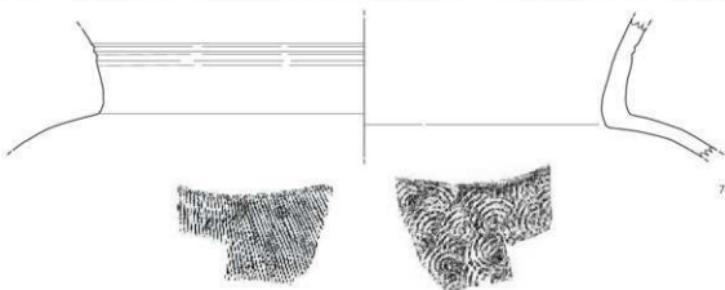


75

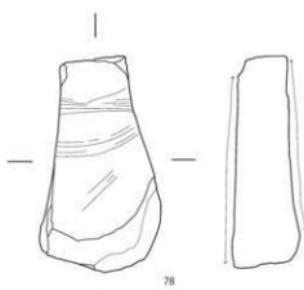


76

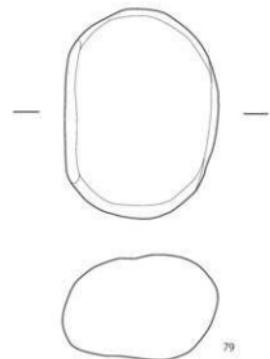
0 10 cm



77



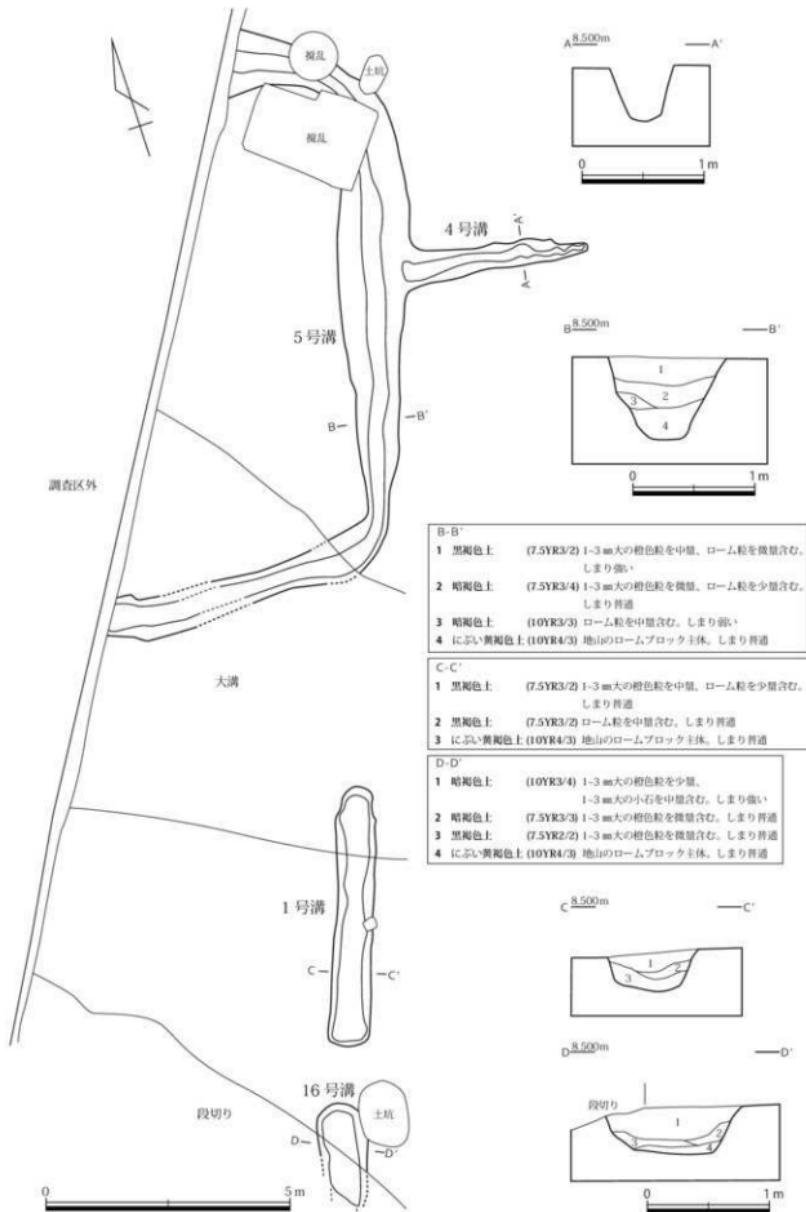
78

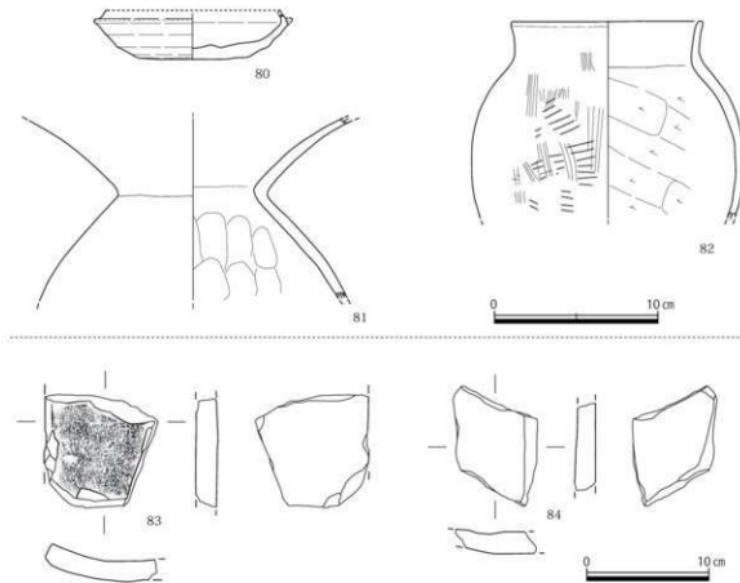


79

0 10 cm

第 18 図 方形周溝状遺構出土遺物 (S = 1/3•1/4)



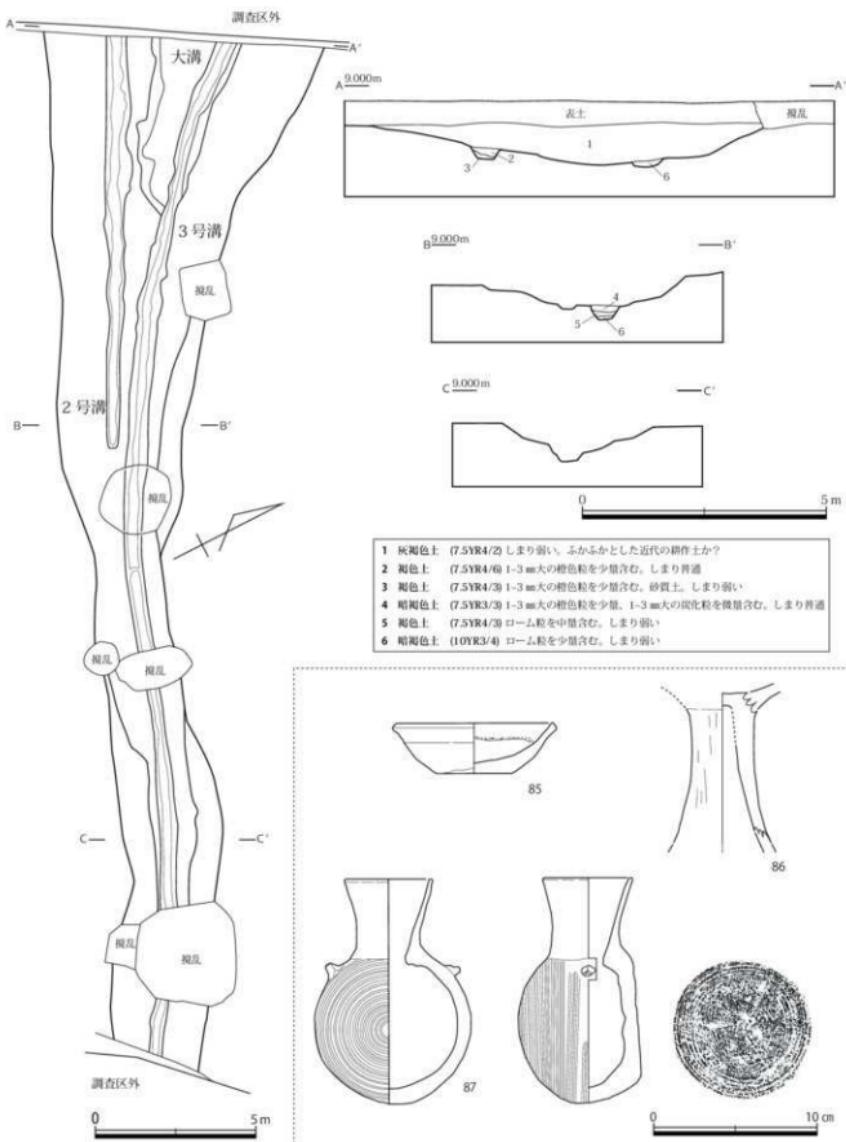


第20図 区画溝出土遺物 (S = 1/3・1/4)

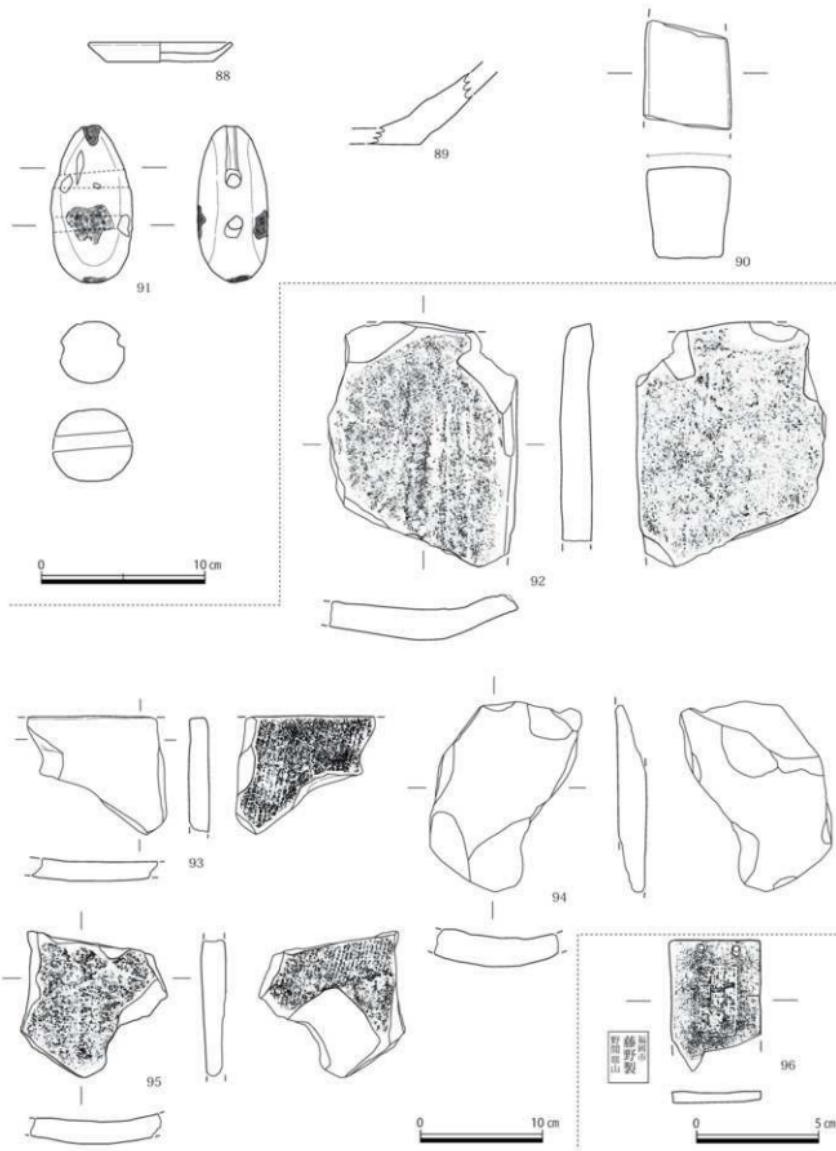
区画溝（第19図）

調査区西側で検出された1号溝、4号溝、5号溝、16号溝からなる溝状遺構である。1号溝は大溝に、16号溝は段切りで切られており、また5号溝も東側は調査区外となり、全体像はつかみにくいが区画を仕切るために作られた溝だと考えられる。溝の断面形は4号溝5号溝は逆台形状で深さは45cm～68cmをはかる。1号溝16号溝は検出面が4号溝5号溝より20cmほど低くなつており遺構上部が削平されている可能性もあるが、深さは30cm～38cmをはかる。時期は出土遺物から飛鳥時代中頃と考えられる。

出土遺物（第20図）80は須恵器の环。口径10.7cm、受部径12.2cm、器高3.0cm。内面は口縁部から胴部にかけてヨコナデ、底部はナデ。外面は口縁部から胴部にかけてヨコナデ、底部はナデ後ヘラ切り。81は土師器の壺。残存高10.0cm。内面は口縁部から頸部にかけては摩滅が激しく調整不明、胴部には指圧痕が残る。外面は摩滅が激しく調整不明だが一部にヨコナデが残る。82は土師器の壺。口径11.6cm、残存高12.1cm。内面は口縁部から頸部にかけてヨコナデ、胴部は平行タタキ後ハケ目。83は初期瓦。長さ9.3cm、幅9.3cm、厚さ1.8cm。凹面には布目が残るが、凸面は摩滅が激しく調整不明。84は初期瓦。長さ9.8cm、幅7.0cm、厚さ1.8cm。凹面凸面共に摩滅が激しく調整不明。



第 21 図 大溝 2号 3号溝 ($S = 1/150 \cdot 1/100$) 及び出土遺物 ($S = 1/3$)



第22図 大溝2号3号溝出土遺物 (S = 1/3・1/4・1/2)

大溝 2 号 3 号溝（第 21 図）

調査区を北西から北東に横切るように検出された溝状遺構である。長さは 31.0 m、幅は広いところで 8.5 m 窪いところで 2.2 m をはかる。2 号溝 3 号溝の上面を切る形で大溝が掘られているが、大溝の埋土はしまりの弱い灰褐色土であり、遺物量も少なく埋土上層からは遺物 96 が検出されている事からも近代に整地のために一気に埋められた溝であり、また 2 号溝 3 号溝からは図化しえなかつた須恵器、土師器、陶磁器類も多数出土している事から、飛鳥時代から繰り返し、作り替えられて来た溝であると考えられる。

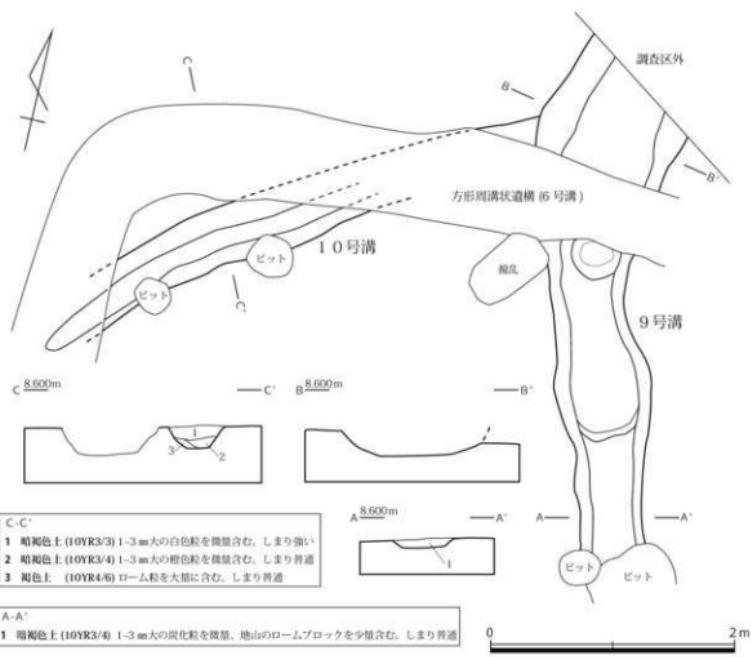
出土遺物（第 21・22 図） 92 は 2 号溝から出土の初期瓦。長さ 20.0cm、幅 15.5cm、厚さ 2.5cm。凹面凸面に布目が残る。85～88, 91, 94 は 3 号溝から出土。85 は白磁の皿、12 世紀中国製。口径 9.5 cm、器高 3.1cm。釉は淡灰色。外底と外面胴部下部に露胎がみられる。86 は土師器の高环脚部。残存高 9.1cm。脚部内面はナデ。外面は摩滅が激しいが一部ミガキが残る。87 は須恵器の提瓶。口径 5.4 cm、器高 13.7cm。内面はヨコナデ。外表面は口縁部から頸部にかけてヨコナデ、胴部は同心円状のカキ目。外裏面は中心部はナデ、外円部にはカキ目痕あり。88 は土師器の皿。口径 8.6cm、底径 6.6 cm、器高 1.2cm。内外面共に摩滅が激しく調整不明。外底部はヘラ切り、板状圧痕あり。口縁部内外面に淡灰黒色を帯びる箇所があり、灯明皿としての使用の可能性あり。91 は石錘。長さ 9.6cm、幅 4.9 cm、厚さ 4.3cm。石材は砂岩。穿孔は上下 2 ヶ所にあり径は約 0.8cm。一条の溝が穿孔から頭頂部を通り裏側の穿孔まで施されている。石錘全体は研磨されており打痕も認められる。94 は初期瓦。長さ 15.5cm、幅 12.4cm、厚さ 2.5cm。凹面凸面共に摩滅が激しく調整不明。89, 90, 93, 95, 96 は大溝から出土。89 は弥生土器。甕の底部。残存高 4.3cm。内外面共に摩滅が激しく調整不明。90 は砥石。長さ 6.7cm、幅 5.4cm、厚さ 5.6cm。鋸型の石材を再利用か。石材は砂岩。93 は初期瓦。長さ 9.7 cm、幅 11.5cm、厚さ 1.7cm。凹面は摩滅が激しく調整不明。凸面は竹状の当て具によるタタキ。95 は初期瓦。長さ 11.9cm、幅 12.0cm、厚さ 2.0cm。凹面は摩滅が激しいが一部に布目が残る。凸面は竹状の当て具によるタタキ。96 は陶器製の荷札。長さ 5.4cm、幅 3.8cm、厚さ 0.4cm。表面に「福岡市 野間皿山 藤野製」の刻印があり、陶磁器の出荷時に付けていたものと思われる。

9 号溝（第 23 図）

調査区の北側で検出された溝状遺構である。時期は方形周溝状遺構に切られていることから、飛鳥時代前半から中頃と推測される。南側はピットに切られ、一部を方形周溝状遺構に切られる。北側は調査区外に伸びている。長さは 4.0 m、幅は最大 1.1 m をはかる。深さは南側が浅く約 10cm ほど、北側は遺構上部が削平を受けているが約 20cm ほどで北側に向かって傾斜がついている。遺物は須恵器、土師器の破片のみで図化に耐えうるものは出土しなかった。

10 号溝（第 23 図）

調査区の北側で検出された溝状遺構である。時期は方形周溝状遺構に切られていることから、飛鳥時代前半から中頃と推測される。大部分を方形周溝状遺構と 9 号溝に切られており、長さは 4.4 m、幅は最大 50cm、深さは 20cm をはかる。遺物は須恵器、土師器の破片のみで図化に耐えうるものは出土しなかった。



第23図 9号10号溝 (S = 1/40)

11号溝（第24図）

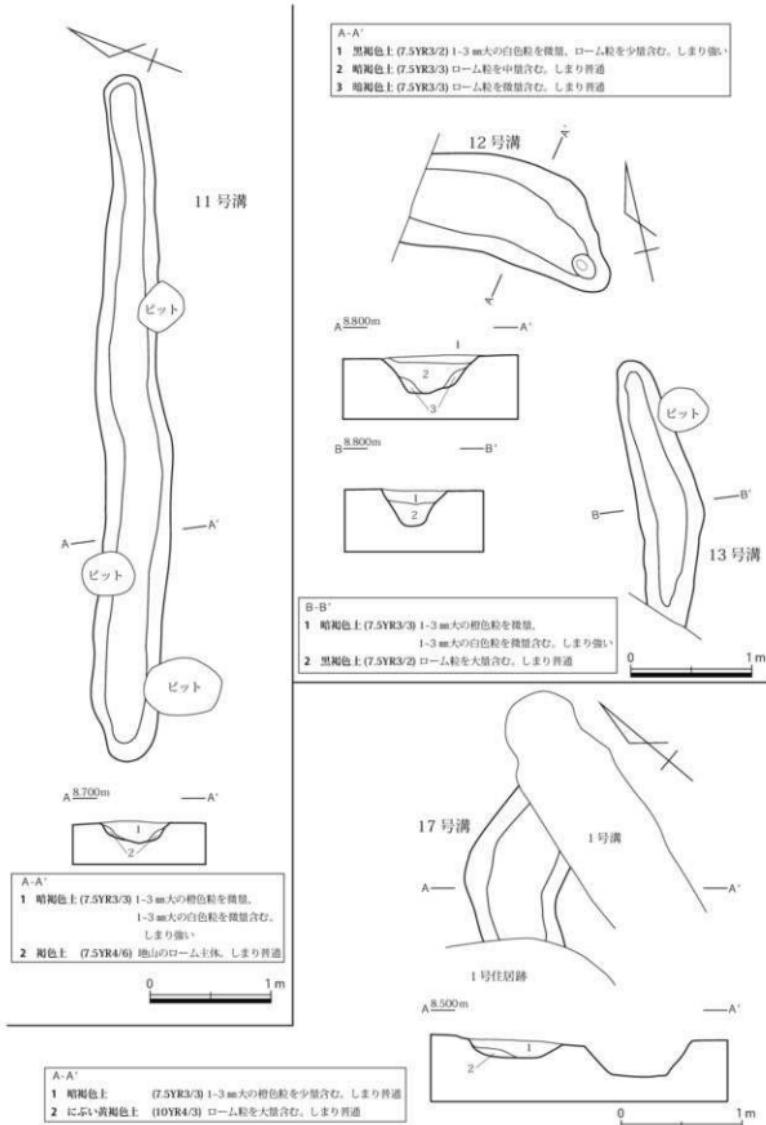
調査区の中央部で検出された溝状遺構である。長さは5.6m、最大幅は55cm、深さは18cmをかかる。遺物は土師器の破片のみで図化に耐えうるものは出土しなかった。時期は飛鳥時代か。

12号13号溝（第24図）

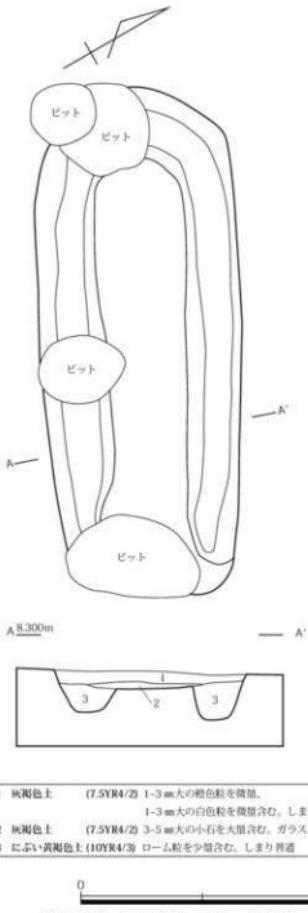
調査区の東側で検出された溝状遺構である。溝の断面形は、逆台形状で深さは約30cmをかかる。遺構の大部分を搅乱で切られており全体像は不明だが、6号7号8号溝から成る方形周溝状遺構のように方位軸にそって作られたものである可能性もある。遺物は土師器の破片のみで図化に耐えうるものは出土しなかった。時期は飛鳥時代か。

17号溝（第24図）

調査区の西側で検出された溝状遺構である。1号住居跡と1号溝に切られているが、溝としての全體像が見えず、検出時は溝としたが、実際は土坑であった可能性が高い。深さは30cmをかかる。遺物は土師器の破片のみで図化に耐えうるものは出土しなかった。時期は飛鳥時代か。



第24図 11号 12号 13号 17号溝 (S = 1/40)



第25図 4号土坑 (S = 1/20)

6) 土坑

4号土坑 (第25図)

調査区北側で検出された土坑である。木棺墓、あるいは石棺墓と考えられる。一部ビットに切られているが長さ 2.1 m 幅 84cm、深さ 8cm をはかる。土坑内部には幅 25cm、深さ 10 ~ 15cm の掘り込みがあり、木棺あるいは石棺が据えられていたと思われる。遺構上面は削平を受けており遺構検出面から灰褐色土（1層）を取り除いた段階で 3 ~ 5mm 大の小石を含む層（2層）が現れ、2 層面直上でガラス玉が 31 点検出された。遺構上面が削平を受けていた関係上出土遺物がガラス玉以外は土器片が数点のみで時代を特定するのは難しいが、弥生時代中期後半の土坑である 1 号土坑を切ることから弥生時代後期から古墳時代前期と考えられる。ガラス玉については第 IV 章にて詳しく記す。

1号土坑 (第26図)

調査区北側で検出された土坑である。南側を 4 号土坑に切られているが、直径 75cm、深さ 25cm の円形を呈する。時期は出土遺物から弥生時代中期後半と考えられる。

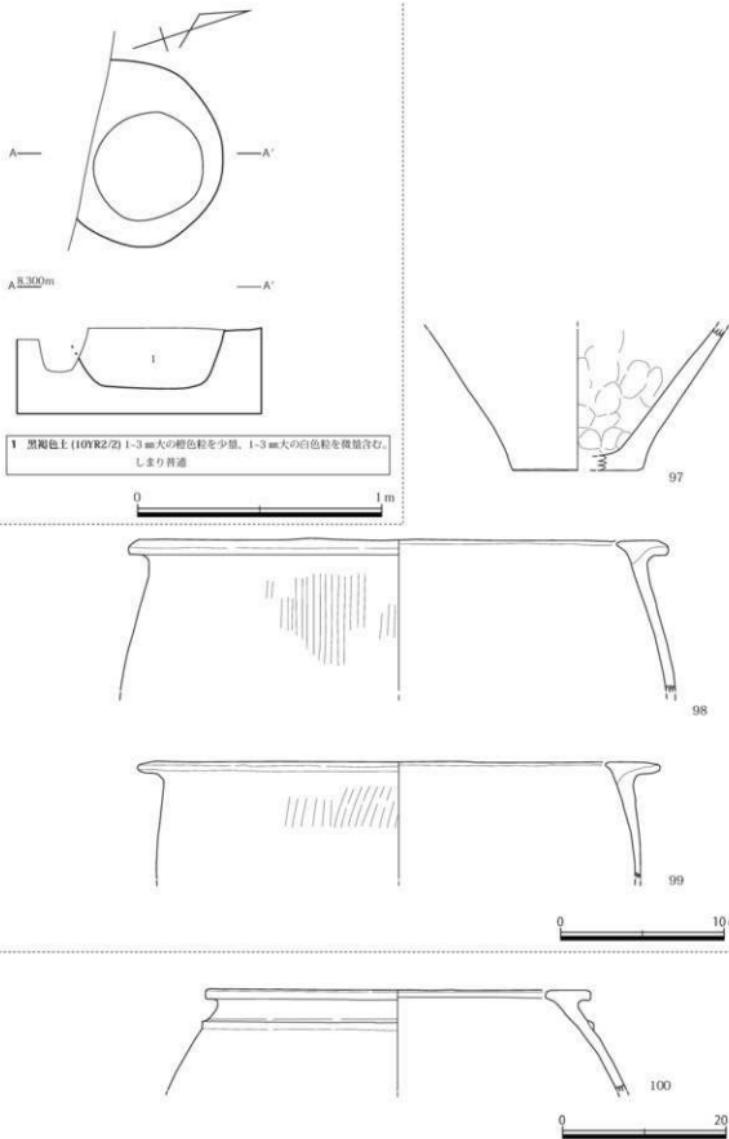
出土遺物 (第26図) 97 ~ 100 は弥生土器。
97 は甕の底部。底径 8.0cm、残存高 8.7cm。内面は指圧痕が残る。外面は摩滅が激しく調整不明だが一部にヨコナデが残る。
98 は甕。口径 33.0cm、残存高 9.2cm。内外面共に摩滅が激しく調整不明

だが、外面には一部ハケ目が残る。
99 は甕。口径 32.0cm、残存高 7.1cm。内外面共に摩滅が激しく調整不明だが、外面には一部ハケ目が残る。
100 は甕の口縁部。口径 47.0cm、残存高 12.2cm。外面はナデ。外面は摩滅が激しく調整不明だが、ヨコナデが残る。K II b 式。

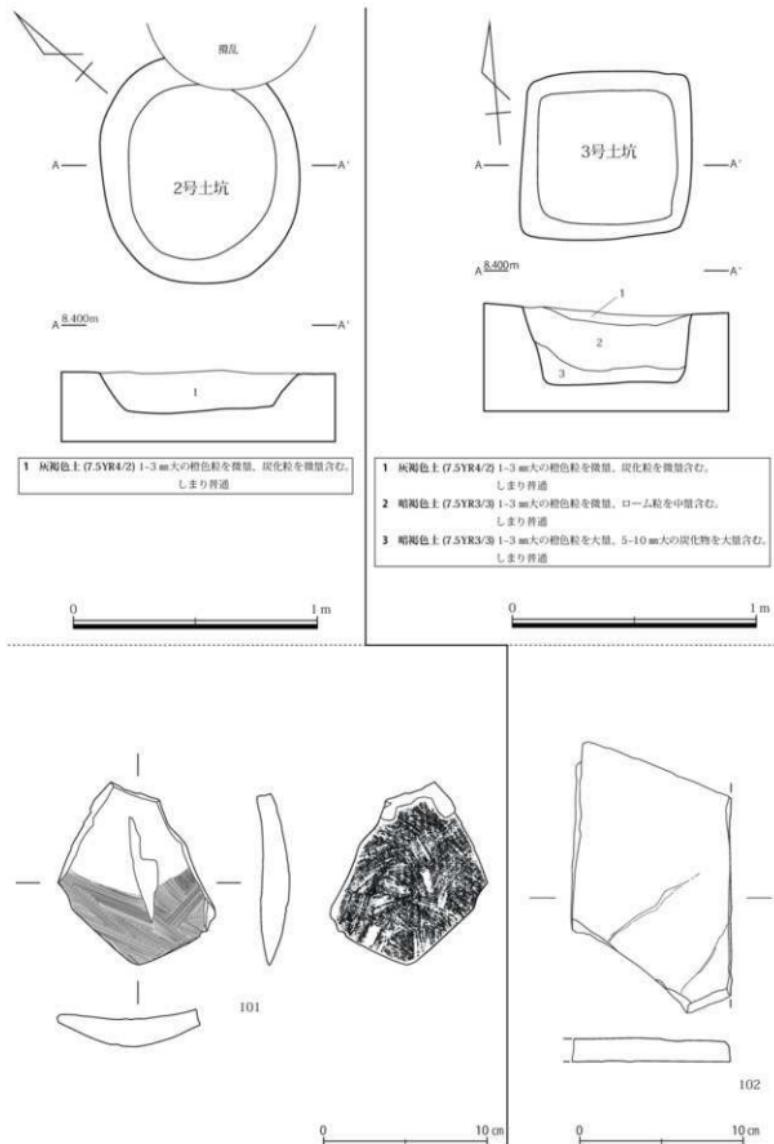
2号土坑 (第27図)

調査区中央部で検出された土坑である。長径 90cm、短径 80cm、深さ 27cm の円形を呈する。時期は出土遺物から中世と考えられる。

出土遺物 (第27図) 101 は砥石。滑石製石鍋の転用。長さ 11.1cm、幅 9.6cm、厚さ 1.7cm。



第26図 1号土坑 ($S = 1/20$) 及び出土遺物 ($S = 1/3 \cdot 1/6$)



第27図 2号3号土坑 (S = 1/20) 及び出土遺物 (S = 1/3)

3号土坑（第27図）

調査区北側で検出された土坑である。長さ70cm、幅70cm、深さ30cmの方形を呈する。第3層が炭化物を多く含む層であるが、出土遺物も用途不明石製品と土器の破片が数点のみで、時期は不明。

出土遺物（第27図）102は用途不明石製品。石棺の一部か。長さ16.5cm、幅9.8cm、厚さ1.5cm

7号土坑（第28図）

調査区西側で検出された土坑である。長さ1.4m幅1.0m深さ1.35mの楕円形を呈する。検出面より深さ50～70cmのところが3方向でテラス状になっている。検出時は土坑としたが遺物の量、深さなどから井戸である可能性もある。時期は出土遺物から飛鳥時代前半から中頃と考えられる。

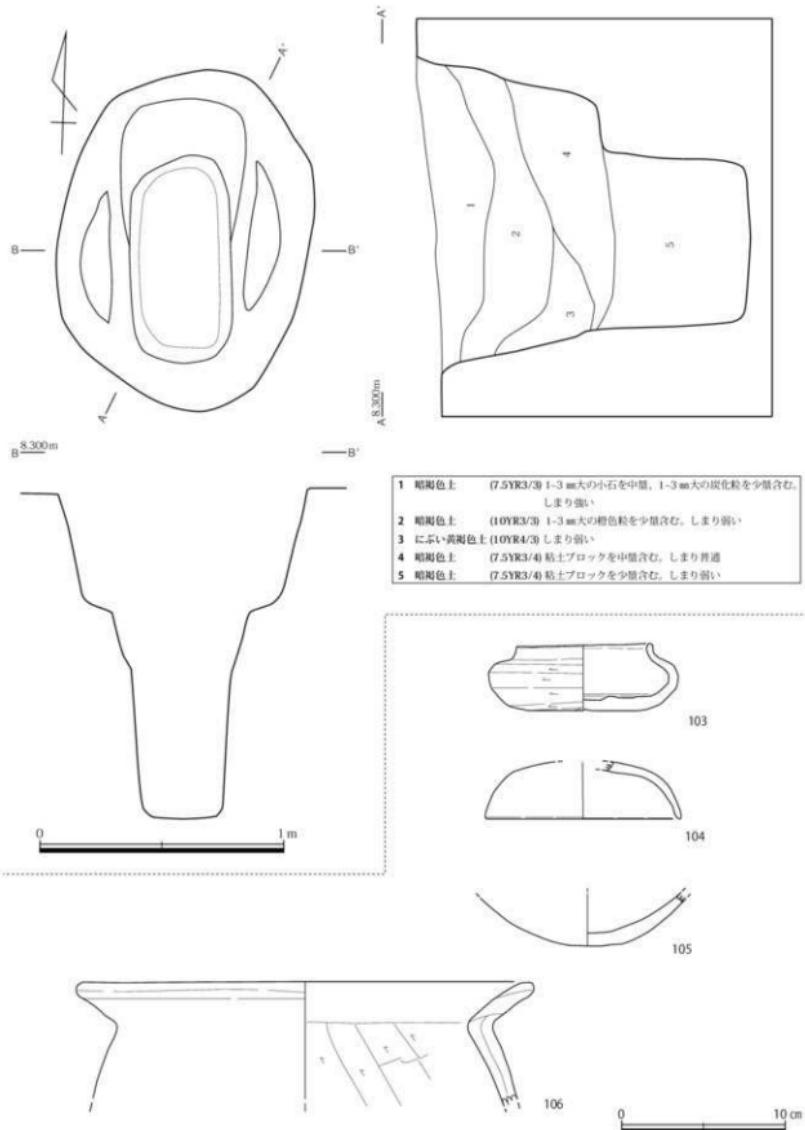
出土遺物（第28・29図）103～105は須恵器。103は壺。口径8.0cm、器高4.0cm。内面はヨコナデ。外面は口縁部はヨコナデ、胴部から底部にかけてはヘラケズリ。104は环蓋。口径12.0cm、残存高3.5cm。内面は口縁部から胴部にかけてヨコナデ、天井部はナデ。外面は口縁部から胴部にかけてヨコナデ、天井部はナデ。105は壺の底部。残存高3.3cm。内外面共にナデ。106～110は土師器。106は甕。口径28.0cm、残存高7.5cm。内面は口縁部から頸部にかけて摩滅が激しく調整不明。胴部はヘラケズリ。外面は口縁部から頸部にかけてヨコナデ、胴部は摩滅が激しいが一部にハケ目が残る。107は鉢。口径17.0cm、器高16.0cm。内面は口縁部はハケ目、胴部から底部にかけてはヘラケズリ。外面は口縁部はヨコナデ、胴部から底部にかけてはハケ目。108は鉢。口径17.2cm、残存高16.8cm。内面は口縁部はヨコナデ、胴部から底部にかけてはヘラケズリ、また板状工具の圧痕あり。外面は口縁部はヨコナデ、胴部から底部にかけてはハケ目。109は鉢。口径11.0cm、残存高9.8cm。内面は口縁部はハケ目、胴部はヘラケズリ。外面は口縁部はヨコナデ、胴部はハケ目。110は甕。口径21.6cm、残存高14.2cm。内面は口縁部から頸部にかけてハケ目後ヨコナデ、胴部はヘラケズリ。外面は口縁部から頸部にかけてハケ目後ヨコナデ、胴部はナデ、一部ハケ目が残る。111は初期瓦。長さ18.5cm、幅13.7cm、厚さ1.5cm。凹面凸面共に摩滅が激しく調整不明。112は砥石。鋳型の再利用か。石材は砂岩。

5号土坑（第30図）

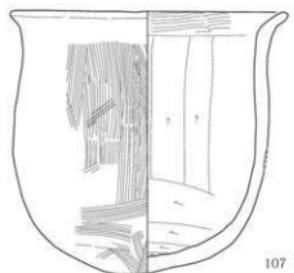
調査区北側で検出された楕円形状の土坑であり、一部は調査区外、一部は9号溝に切られる。長さ1.07m、幅60cm、深さ26cmをはかる。底面は平坦である。遺物は土師器の破片のみで図化に耐えうるものは出土しなかった。時期は不明。

6号土坑（第30図）

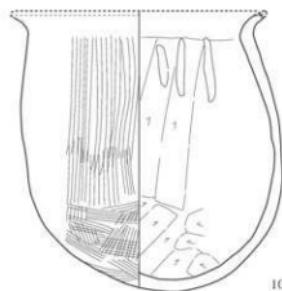
調査区東側で検出された隅丸長方形の土坑である。長さ1.12m、幅44cm、遺構上部は削平を受けているが現状の深さは10cmをはかる。底面は平坦だが2ヶ所に円形状の掘り込みがある。遺物は土師器の破片のみで図化に耐えうるものは出土しなかった。時期は不明。



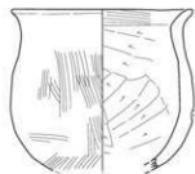
第28図 7号土坑 ($S = 1/20$) 及び出土遺物 ($S = 1/3$)



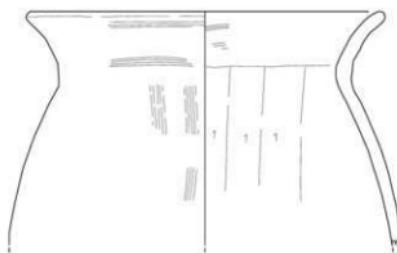
107



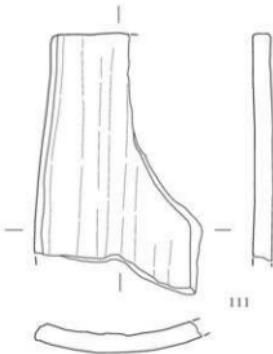
108



109



110



111

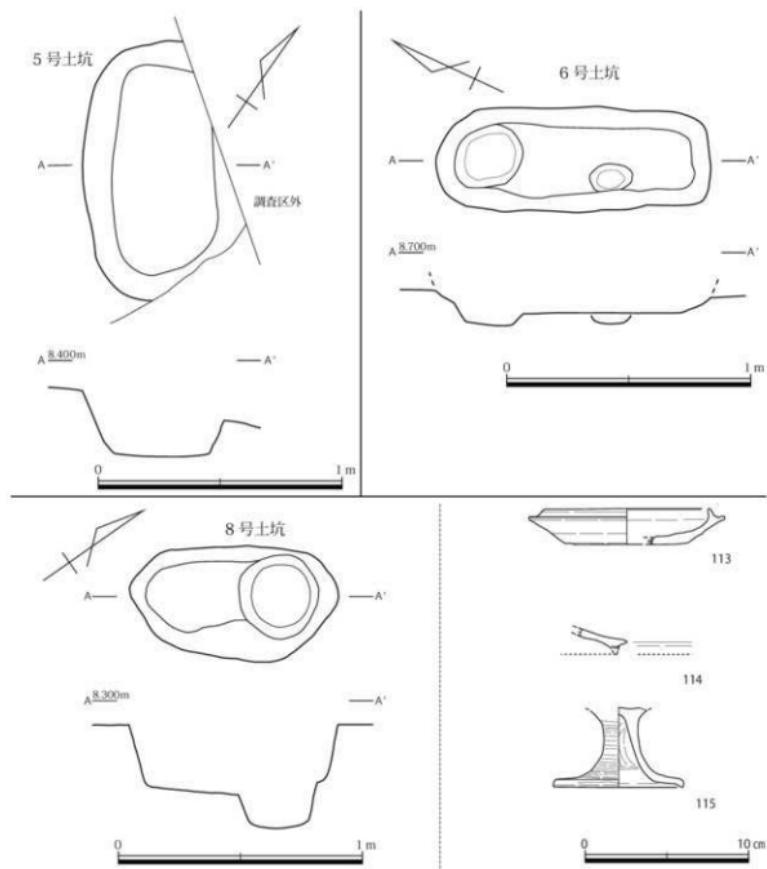


112

0 10 cm

0 10 cm

第29圖 7号土坑出土遺物 ($S = 1/3 \times 1/4$)

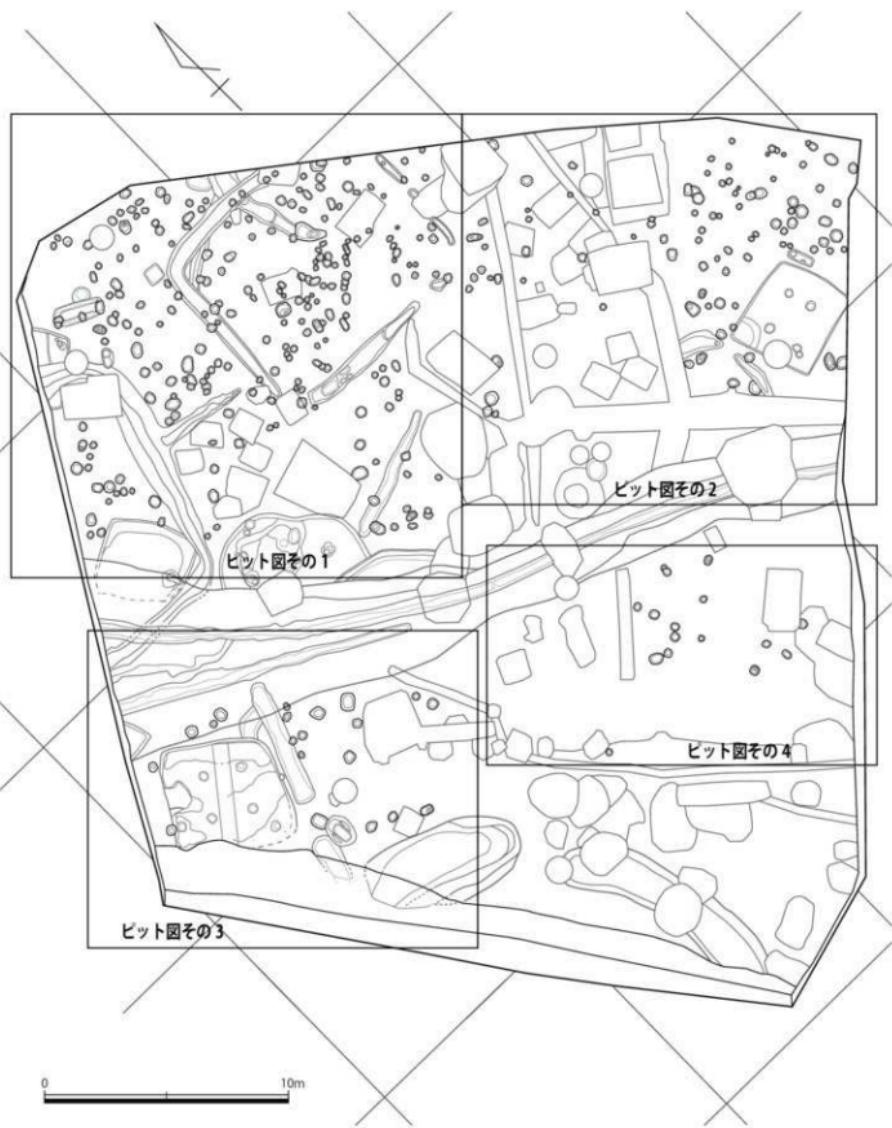


第30図 5号6号8号土坑 ($S = 1/20$) 及び出土遺物 ($S = 1/3$)

8号土坑 (第30図)

調査区北側で検出された楕円形状の土坑である。長さ 85cm、幅 47cm、深さ 27cmをはかる。底面は平坦だが、1ヶ所に円形状の掘り込みがある。時期は出土遺物から飛鳥時代中頃と考えられる。

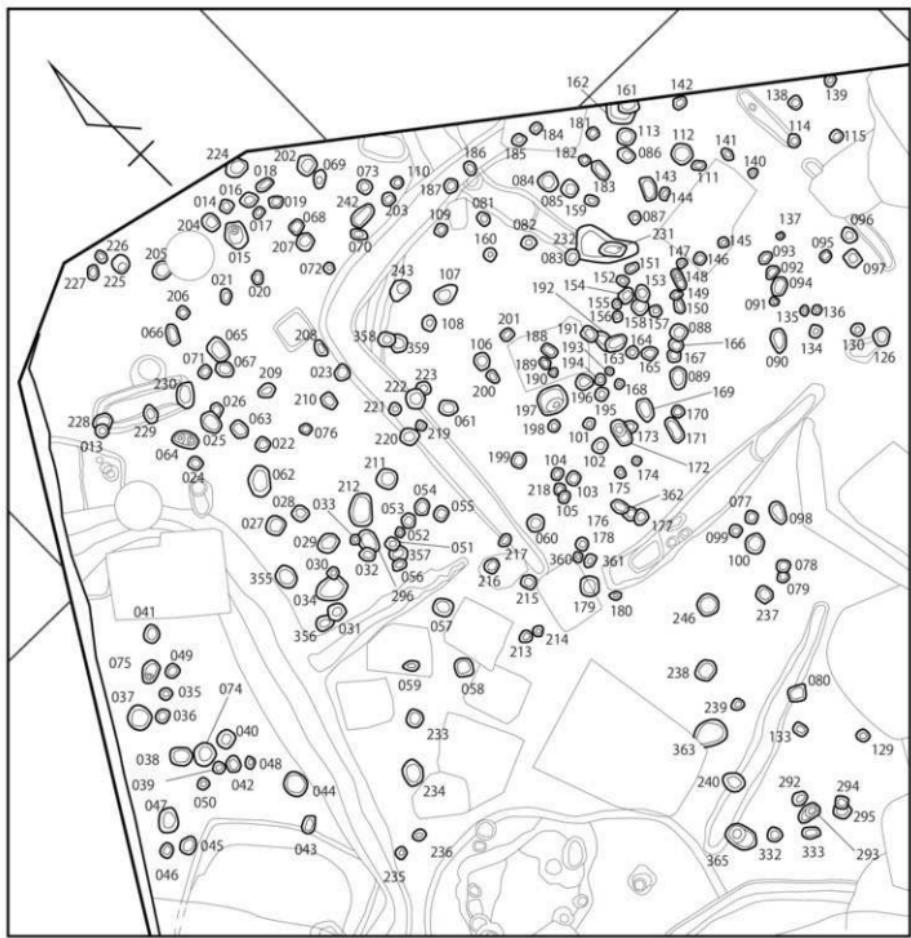
出土遺物(第30図) 113は須恵器の坏。口径 10.2cm、受部径 12.0cm、器高 2.2cm。内面は口縁部から底部にかけてはヨコナデ。底部はナデ。外面は口縁部から胴部にかけてヨコナデ。底部は自然釉がかかり調整不明。114は須恵器の蓋。口径不明、残存高 1.4cm。内外面共にヨコナデ。115は土師器の高環脚部。裾部径 7.8cm、残存高 4.8cm。脚部内面はヘラミガキ。指しづり痕もみられる。外面はヨコナデとヘラミガキ。また内外面共に丹塗りが施されている。



第31図 ピット全体図その1 (S = 1/200)



第32図 ピット全体図その2 (S = 1/200)

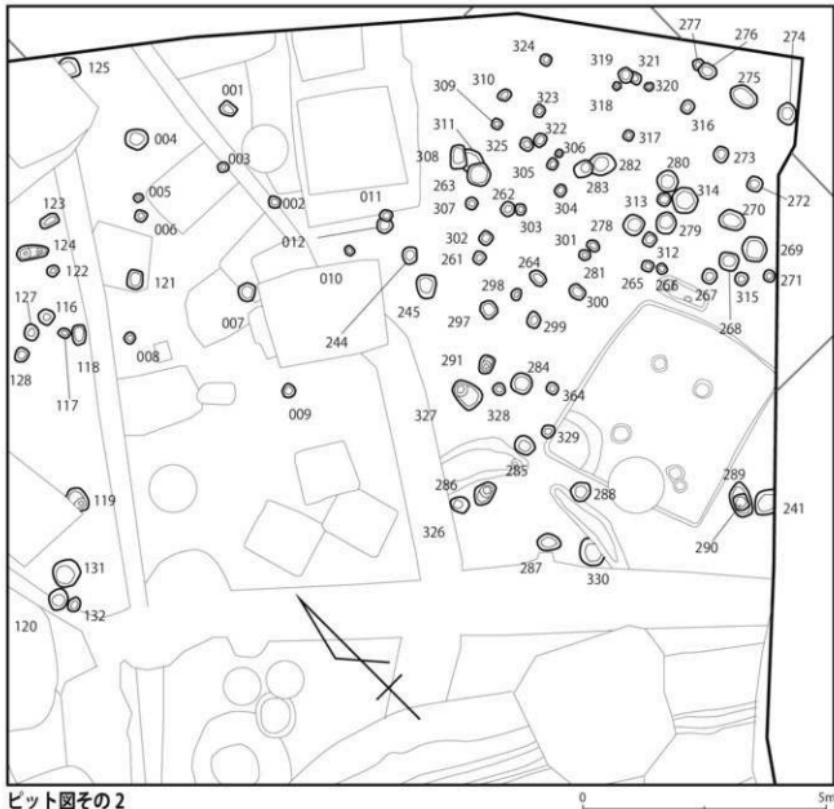


ピット図その1

第33図 ピット図その1 ($S = 1/100$)

7) ピット

本調査区では、調査区南側は園化していない擾乱も含めて既存建物の基礎などにより全面的に削平を受けており、ピットの検出は少なかったが、北側を中心に365基が検出されている（第31図）。出土遺物等も少なく時代の特定は難しい。また東西方向・南北方向に並ぶと思われるピットの列は確認できるが掘立柱建物を構成するピット列は明確には確認できなかつたので、第32図にてピットの



ピット図その2

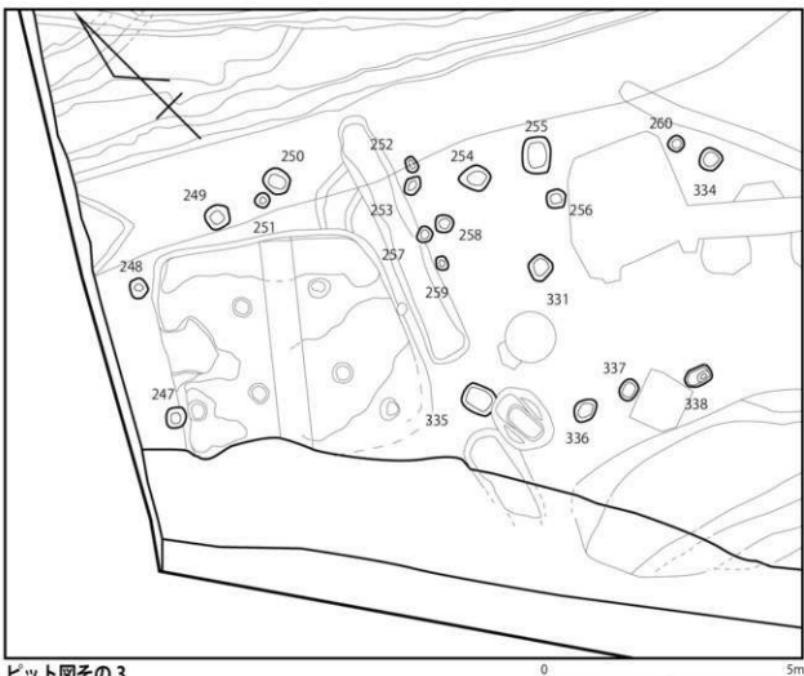
0

5m

第34図 ピット図その2 (S = 1/100)

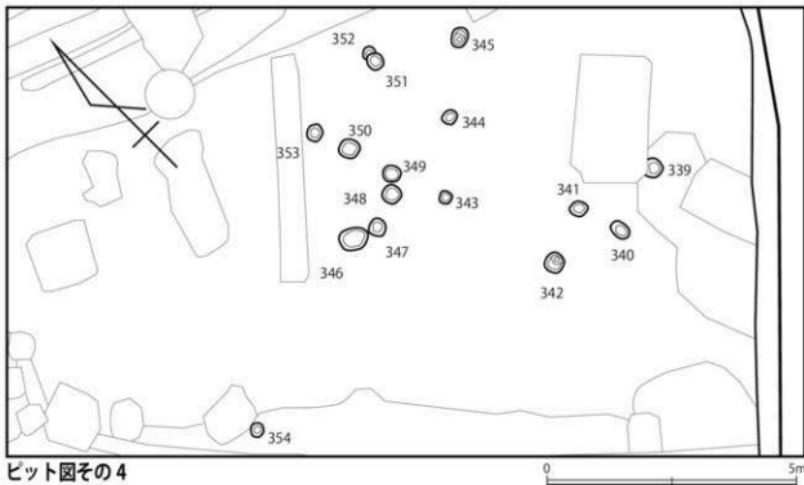
深さを色分けで提示し、ピット番号（第33・34・35図）とピット計測表を掲載するに留める。

出土遺物（第36図）116は須恵器の环身。ピット241から出土。口径11.8cm、器高3.1cm。内面は回転ナデ。外面は口縁部から胴部にかけて回転ナデ、胴部から底部にかけてはヘラケズリ。117は瓦質土器。ピット090から出土。底径6.8cm、残存高4.0cm。内面はナデ。外面はナデ後ミガキ。外底部はナデ。118は砥石。ピット170から出土。長さ14.6cm、幅7.6cm、厚さ5.2cm。全面に磨り。石材は砂岩。119は石鏘。ピット090から出土。口径25.2cm、残存高9.0cm。内面は荒削り後研磨。外表面は粗削り後に縦方向の細いケズリ、最後に横方向の研磨。



ピット図その3

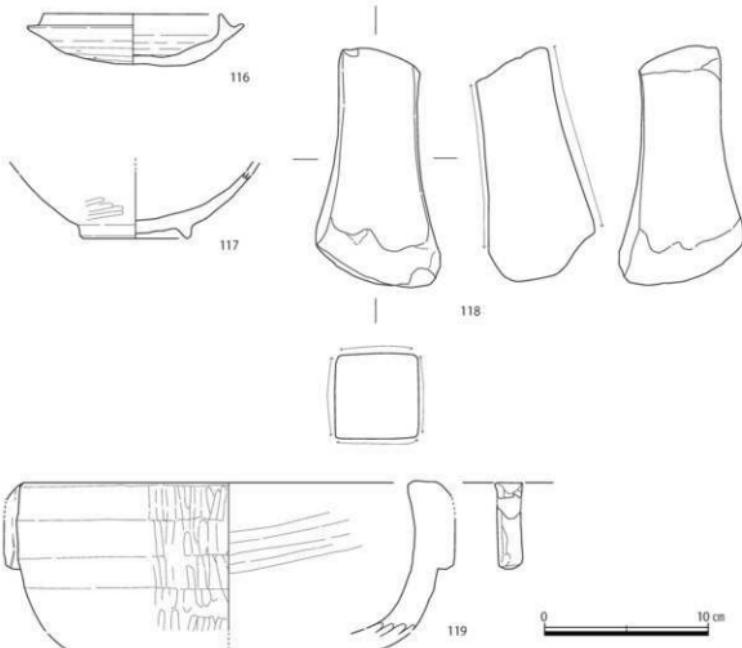
0 5m



ピット図その4

0 5m

第35図 ピット図その3・その4 (S = 1/100)



第36図 ピット出土遺物 (S = 1/3)

(3)まとめ

今回の那珂遺跡群第171次調査では、既存建物の基礎などにおける擾乱が激しく、また後世の掘削による遺構上部の削平など遺構検出という面では、充分に遺構を検出できなかったが、当調査区が集落跡という事もあり、住居跡・井戸・区画溝・方形周溝状遺構などを検出する事で、弥生時代から中世にかけての集落の広がりを確認することができた。

また今回の調査で検出された遺構で、特に注目すべきものは調査区南側で検出された14号溝・15号溝で構成される古墳の周溝である。時期は那珂八幡古墳より時期を後にする古墳時代初頭と考えられる。主体部を含む南側の大半が後世の掘削により失われており、残存部分は2割程度であるが、隣接する那珂八幡古墳との関連性など、古墳時代初頭の那珂八幡古墳周辺の景観を考える上で重要な資料となった。

ビット	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	標高 (cm)	ビット	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	標高 (cm)	ビット	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	標高 (cm)
001	34	25	49	7.89	062	68	45	40	7.90	123	40	23	20	8.16
002	25	18	12	8.07	063	32	32	18	8.12	124	64	25	16	8.21
003	22	21	8	8.05	064	52	30	18	8.05	125	44	35	14	8.01
004	46	40	24	8.00	065	50	38	68	7.57	126	35	28	17	8.20
005	16	15	29	8.04	066	31	23	21	7.96	127	30	25	20	8.19
006	25	22	12	8.22	067	39	30	14	8.13	128	27	26	18	8.21
007	35	34	24	7.99	068	28	26	8	8.04	129	25	21	18	8.19
008	20	18	10	8.32	069	34	24	36	7.84	130	25	24	42	7.96
009	25	24	14	8.21	070	37	22	12	8.16	131	54	52	23	8.12
010	20	17	14	8.28	071	28	26	15	8.08	132	26	25	23	7.97
011	26	20	14	8.27	072	20	18	16	8.12	133	29	22	15	8.33
012	31	29	12	8.29	073	28	26	8	8.19	134	24	24	23	8.18
013	27	26	43	7.67	074	46	42	24	8.05	135	21	17	31	8.06
014	26	24	30	7.75	075	45	31	37	7.87	136	18	17	27	8.11
015	50	42	62	7.51	076	20	20	10	8.22	137	16	15	16	8.22
016	36	28	32	7.74	077	25	25	13	8.27	138	24	24	7	8.16
017	25	19	35	7.78	078	28	27	22	8.20	139	21	22	15	8.12
018	35	22	20	7.86	079	23	23	19	8.28	140	19	16	11	8.27
019	24	23	25	7.85	080	40	32	29	8.10	141	27	20	10	8.31
020	27	24	16	8.05	081	28	23	32	8.05	142	25	24	26	8.04
021	30	21	50	7.68	082	30	25	35	8.08	143	48	28	53	7.87
022	27	27	14	8.18	083	33	29	33	8.11	144	24	22	23	8.13
023	33	32	17	8.19	084	40	38	51	7.90	145	18	18	35	7.92
024	23	23	21	8.00	085	34	33	37	8.06	146	25	23	28	8.03
025	42	38	53	7.70	086	35	27	35	8.10	147	20	19	42	7.93
026	30	23	19	8.02	087	24	22	25	8.17	148	44	23	35	8.06
027	34	33	23	8.10	088	36	32	40	8.06	149	23	17	12	8.25
028	32	25	47	7.88	089	43	33	35	8.06	150	33	21	48	7.93
029	43	34	12	8.26	090	47	31	40	7.97	151	27	18	38	8.09
030	23	22	13	8.24	091	18	17	24	8.10	152	23	21	54	7.91
031	35	34	14	8.22	092	31	23	31	8.04	153	33	27	52	7.93
032	30	26	22	8.13	093	25	21	30	8.05	154	32	27	35	8.10
033	19	12	14	8.23	094	39	32	12	8.20	155	19	17	22	8.23
034	60	46	10	8.25	095	24	22	23	8.15	156	22	20	24	8.20
035	23	23	12	8.15	096	33	30	38	8.01	157	25	21	20	8.25
036	26	25	31	7.96	097	34	30	29	8.10	158	35	32	34	8.11
037	46	45	30	7.95	098	44	30	30	8.09	159	27	18	30	8.15
038	41	36	17	8.08	099	23	23	34	8.06	160	25	23	18	8.22
039	25	23	13	8.17	100	41	38	42	7.96	161	44	27	36	7.86
040	37	34	19	8.10	101	22	22	24	8.17	162	61	49	24	8.04
041	35	27	13	8.07	102	28	29	32	8.09	163	44	29	17	8.26
042	29	31	10	8.20	103	29	27	23	8.15	164	25	24	19	8.24
043	33	27	24	8.07	104	23	22	15	8.23	165	30	24	30	8.13
044	49	46	43	7.90	105	25	23	5	8.32	166	28	25	41	8.05
045	41	30	43	7.79	106	33	30	58	7.82	167	28	27	30	8.11
046	29	25	8	8.14	107	49	34	46	7.91	168	20	16	19	8.24
047	40	34	30	7.95	108	26	25	34	8.03	169	46	31	40	8.04
048	22	19	15	8.16	109	26	25	34	8.00	170	24	23	30	8.04
049	28	24	20	8.05	110	24	24	6	8.23	171	52	27	34	8.07
050	21	19	16	8.11	111	26	18	21	8.25	172	56	34	38	8.06
051	29	25	44	7.91	112	43	40	20	8.26	173	30	25	17	8.27
052	19	17	11	8.25	113	34	33	10	8.30	174	19	17	11	8.27
053	28	26	41	7.96	114	26	22	30	8.04	175	22	20	13	8.26
054	33	28	18	8.19	115	24	22	35	8.01	176	37	25	36	8.00
055	29	29	36	8.01	116	28	30	26	8.15	177	31	30	38	7.95
056	28	21	28	8.06	117	25	18	9	8.33	178	25	23	26	7.98
057	40	36	15	8.18	118	36	27	20	8.21	179	38	38	50	7.78
058	37	35	19	8.16	119	47	32	28	8.02	180	22	17	22	8.20
059	29	16	42	7.87	120	35	35	20	8.05	181	26	24	37	8.04
060	35	33	23	8.04	121	34	28	23	8.18	182	24	21	15	8.27
061	37	28	45	7.92	122	22	21	13	8.25	183	45	27	17	8.24

※計測表の標高はビット下端の最深部の高さである

ピット計測表 1

ピット	底径 (mm)	周径 (mm)	深さ (mm)	標高 (mm)	ピット	底径 (mm)	周径 (mm)	深さ (mm)	標高 (mm)	ピット	底径 (mm)	周径 (mm)	深さ (mm)	標高 (mm)
184	21	20	21	7.96	245	45	39	17	8.25	306	18	13	8	8.45
185	28	24	41	7.77	246	44	43	27	8.22	307	24	22	18	8.33
186	25	21	22	7.91	247	40	39	36	7.78	308	46	33	43	8.06
187	29	28	28	7.77	248	40	35	33	7.88	309	20	19	4	8.42
188	33	26	17	8.08	249	40	38	20	8.07	310	25	21	5	8.33
189	23	23	43	7.85	250	52	46	22	8.01	311	45	43	19	8.27
190	17	15	10	8.16	251	28	28	25	8.05	312	24	24	4	8.53
191	34	28	44	7.97	252	25	25	10	8.16	313	28	25	20	8.35
192	48	30	未計測	未計測	253	38	32	32	7.94	314	53	52	23	8.29
193	16	16	18	8.24	254	54	49	56	7.69	315	25	24	13	8.41
194	22	20	12	8.30	255	65	55	33	7.82	316	26	25	9	8.39
195	26	24	13	8.29	256	37	34	21	8.09	317	20	19	11	8.40
196	32	30	14	8.27	257	32	29	23	8.00	318	14	14	16	8.16
197	60	58	31	8.07	258	35	34	46	7.76	319	29	28	34	8.02
198	23	22	30	8.09	259	28	25	25	7.92	320	15	14	5	8.41
199	31	28	29	8.05	260	26	25	14	8.18	321	26	22	12	8.31
200	29	22	22	8.17	261	22	20	5	8.54	322	26	24	16	8.34
201	27	23	39	8.01	262	28	26	27	8.29	323	23	23	10	8.33
202	40	37	21	7.89	263	48	45	23	8.31	324	21	21	14	8.16
203	27	26	28	8.02	264	34	28	44	8.15	325	28	25	17	8.31
204	38	32	32	7.70	265	24	20	7	8.48	326	38	32	36	8.03
205	37	35	43	7.67	266	19	19	5	8.49	327	62	48	45	8.10
206	25	23	23	7.96	267	30	27	37	8.17	328	24	23	10	8.45
207	36	34	11	8.08	268	38	37	48	8.06	329	28	24	15	8.43
208	30	25	13	8.20	269	48	47	18	8.35	330	57	50	16	8.29
209	33	26	15	8.13	270	52	40	10	8.41	331	50	49	30	7.85
210	33	27	32	7.97	271	23	21	14	8.37	332	26	26	5	8.40
211	40	39	32	8.03	272	30	27	14	8.34	333	35	24	20	8.25
212	64	48	4	8.29	273	31	27	25	8.25	334	45	44	5	8.26
213	26	22	20	8.14	274	42	38	22	8.07	335	62	54	20	7.95
214	20	20	3	8.31	275	59	42	17	8.15	336	50	40	31	7.80
215	31	27	68	7.62	276	37	29	6	8.27	337	42	35	34	7.87
216	32	25	25	8.01	277	25	21	9	8.28	338	53	37	26	7.95
217	27	21	23	8.05	278	39	38	27	8.28	339	35	26	50	7.70
218	23	22	12	8.26	279	41	40	31	8.24	340	39	29	63	7.69
219	22	20	24	7.93	280	41	40	24	8.31	341	33	27	7	8.24
220	36	32	33	8.03	281	24	18	32	8.26	342	39	35	12	8.20
221	17	18	12	8.13	282	55	43	37	8.17	343	24	23	14	8.25
222	40	39	22	8.17	283	38	31	54	8.01	344	27	25	28	8.09
223	34	26	未計測	未計測	284	40	40	14	8.45	345	39	32	28	8.09
224	45	35	57	7.37	285	41	37	49	8.11	346	59	47	18	8.14
225	37	34	32	7.63	286	51	38	26	8.28	347	35	34	17	8.18
226	24	22	24	7.61	287	45	33	11	8.36	348	35	35	25	8.12
227	29	23	12	7.73	288	40	37	42	8.10	349	36	32	15	8.22
228	38	38	31	7.69	289	67	42	3	8.28	350	39	36	19	8.17
229	36	29	33	7.77	290	36	32	38	7.03	351	33	31	46	7.91
230	55	33	11	7.87	291	37	29	24	8.27	352	23	23	10	8.27
231	54	29	42	8.02	292	34	27	未計測	未計測	353	30	26	49	7.87
232	126	61	6	8.39	293	47	28	未計測	未計測	354	26	26	5	8.08
233	35	30	19	8.12	294	25	22	未計測	未計測	355	36	42	19	8.13
234	52	41	49	7.80	295	30	25	未計測	未計測	356	37	29	16	8.19
235	25	22	7	8.16	296	46	45	13	8.23	357	34	25	27	8.06
236	24	20	10	8.27	297	34	31	14	8.45	358	30	27	未計測	未計測
237	35	35	6	8.41	298	21	19	19	8.39	359	36	27	未計測	未計測
238	40	39	31	8.28	299	33	24	20	8.38	360	21	13	30	8.00
239	21	21	19	8.31	300	32	28	15	8.42	361	20	19	26	8.00
240	41	37	31	8.15	301	22	19	26	8.29	362	35	26	14	8.16
241	49	40	17	8.14	302	26	24	26	8.32	363	62	47	27	8.18
242	56	32	4	8.23	303	21	20	22	8.33	364	23	21	19	8.37
243	37	36	43	7.90	304	23	20	22	8.32	365	64	46	25	8.22
244	31	27	14	8.29	305	22	20	46	8.08					

*計測表の標高はピット下端の最深部の高さである

ピット計測表 2

第IV章 自然科学分析

那珂遺跡群 171 次調査出土ガラス小玉の保存科学的調査

比佐陽一郎（埋蔵文化財センター）

1. はじめに

那珂遺跡群 171 次調査で出土したガラス小玉について、デジタルマイクロスコープによる製作技法の観察と、蛍光 X 線分析による材質調査を行った。

近代以前のガラスは珪素を主成分とする珪酸塩ガラスであるが、近年の理化学機器を用いた調査の広まりによって、融剤や着色剤等から幾つかに分類され、それぞれの系譜や変遷が明らかにされてきている（奈良文化財研究所 2006・肥塙 2010）。また、ガラス製品の中でも数多く出土する小玉の類には、製作技法も複数存在することが知られている（大賀 2002）。

2. 調査の方法

調査対象とした資料は当該調査区の SK-004 から出土したガラス小玉 31 点である。遺構は木植墓もしくは土壙墓と見られ、ガラス小玉はその副葬品と考えられる。時期は土器類の出土がなく詳細は不明ではあるが概ね古墳時代と考えられている。今回の調査は、これら小玉の製作技法と、基礎ガラス、着色剤の推定を目的としたものである。調査には福岡市埋蔵文化財センターの装置を使用した。

デジタルマイクロスコープは、試料に光を照射して、反射した光を CCD カメラで検知し、デジタル処理によって拡大しモニターに映し出すものである。画面上での計測や画像の合成、三次元化などの機能が付加されている。使用したのは HIROX 社製 KH-8700 で、観察倍率は 20 ~ 160 倍が使用できる。観察は、表面の凹凸は落射光、内部の気泡や粒子の観察には透過光を用い、ガラス玉に残る気泡や不純物などの流れ、蝕像などを見て、製作技法を判別している。

蛍光 X 線分析は、試料に X 線を照射し、試料に含まれる元素から生じる各元素ごとに特有のエネルギー値を持つ二次 X 線=蛍光 X 線を検出器で捉え、その元素の種類や量を調べる分析法である。ガラス資料の場合、局部的に強い X 線を照射するとその部分が変色を来す現象が起きるため、X 線強度が小さくても検出感度の優れたエネルギー分散型蛍光 X 線分析法が有効である。またガラスは風化の影響によって組成が変化する場合があり、本来であれば風化層を除去した上で分析を行い、更に標準資料を用いた校正によって含有元素の定量値を算出し、データの比較検討を行うところであるが、遺物を損傷させずに実施したため定性分析のみに止めている。装置は AMETEK 社製のエネルギー分散型微少部蛍光 X 線分析装置 Orbis で、分析条件は次のとおり。

対陰極：ロジウム (Rh) / 検出器：シリコンドリフト検出器 / 印加電圧：20kV・電流値：1000 μ A / 測定雰囲気：真空 / 測定範囲 0.3mm φ / 測定時間 120 秒

3. 結果

調査の結果は一覧表に示すとおりである。材質については、今回の調査では完全非破壊分析による定性分析であり、得られた元素の種類と相対強度を手掛かりとして、肥塚氏らによる研究（肥塚ほか2010）に基づく材質的な分類に依拠した分類を試みている。

しかし、今回調査を行った資料は幾つかの点で、これまでの経験則に当てはまらない事項が看取された。まず色調であるが、弥生～古墳前期の青色系の小玉は概ね青紺（コバルトブルー）か淡青（スカイブルー）に区分される。しかし本資料群の場合、縁に区分される2点以外は、大きくは淡青色に見えるものの、縁がかったものや青みが強いものなど、単純に色調を表現することが難しい。

製作技法の点でも、当該期に多い引伸ばし法と明確に判断できるものがある一方、気泡が少なく流れが読みにくいものや、介在物らしきものは孔の長軸に平行するが、表層近くの気泡は不規則に散在するものが複数点ある。これらは一応、疑問符を付して引伸ばしとしているが、更に気泡の流れが見えず、ブロック状の界面が観察される資料は鋳型作りとしている。これらの判断（推定）基準は薄弱と言わざるを得ない。

観察での違惑は材質分析にも表れている。風化で失われやすいとされるナトリウムのピークが、これまでにあまり経験が無いほどに強く現れるものが多い。また、これまでではナトリウムが含まれる場合、カルシウムがカリウムのピークを上回ることでソーダ石灰ガラスと判別してきたが、確かにその様な資料もある一方で、カリウム、カルシウムのピーク高が拮抗する資料も少なくない。これらは暫定的にソーダ石灰ガラスと判断するが、とりあえずの明示は控えたい。

4.まとめ

今回の調査においては、No.12と13は緑色の色調や製作技法、検出される元素の特徴などから、これまでにも弥生時代後期以降の遺跡の出土例としてよく見られてきた高アルミナタイプのソーダ石灰ガラスと判別できた。しかし、それ以外の資料については、過去の調査経験に基づく単純な分類が難しいもの多かった。更に、色調や透明感、あるいは製作技法の特徴と、材質分析の結果が符合しない点も、結果を明確に整理できない大きな要因となっている。今後、類例の増加を待って改めて検討する機会が得られれば幸いである。

【参考文献】

- 大賀克彦 2002「日本列島におけるガラス小玉の変遷」『小羽山古墳群』清水町埋蔵文化財発掘調査報告書V 福井県清水町教育委員会
肥塚隆保 2010「古代ガラスの科学」『月刊文化財』566号 第一法規
肥塚隆保・田村朋美・大賀克彦 2010「材質とその変遷」『月刊文化財』566号 第一法規
独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所埋蔵文化財センター 2006『埋蔵文化財ニュース』124
古代のガラス－考古科学的な調査・研究から－

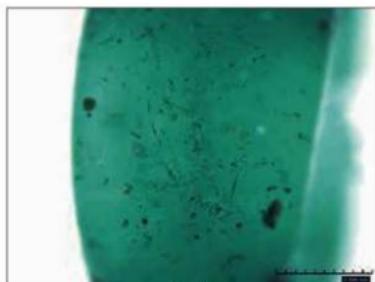
観察色調	観察所見	分析所見
1(淡)青	堅った瑪瑙ではなく一部が細くなるなど全体に歪。透明度は高い。気泡は規則的に並ぶ部分が見られる。一引伸ばし。	④Si//ONa, Al, K, Ca, Fe, Cu//△Mg, Ti, Mn, Pb
2. 深青	堅ったドーナツ状を示すが、部分に歪の様子に差がある。気泡は少なく透明度が低いため読みににくいが、割れ成して見える部分がある。一引伸ばし。	④Si//●Na//OAl, K, Ca, Fe, Cu//△Mg, Ti, Mn, Pb
3. 深青	堅ったドーナツ状を示すが、部分に歪の様子に差がある。気泡は読みにくいが、割れ成して見える部分がある。一引伸ばし。	④Si//●Na//OAl, K, Ca, Fe, Cu//△Mg, Ti, Mn, Pb
4. 深青	堅ったドーナツ状を示すが、部分が平行して筋状に見える部分がある。一引伸ばし。	④Si//●Na//OAl, K, Ca, Fe, Cu//△Mg, Ti, Mn, Pb
5. 深青	堅ったドーナツ状を示す。気泡は少なく透明度が低いため読みは読みにくい。難像が丸く介在物が平行して筋状に見える部分がある。一引伸ばし。	④Si//●Na//OAl, K, Ca, Fe, Cu//△Mg, Ti, Mn, Pb
6. 深青	堅ったドーナツ状を示す。透明度が低い。気泡は独立した大きなものが散在し、流れは読みににくいが、丸に平行して並ぶ部分がある。一引伸ばし。	④Si//●Al//ONa, Mg, K, Ca, Ti, Fe, Cu//△Mn, Pb
7. 深青	堅ったドーナツ状を示す。気泡は少なく透明度が低いため読みは読みにくい。難像が丸く介在物が平行して筋状に見える部分がある。一引伸ばし。	④Si//ONa, Mg, Al, K, Ca, Ti, Fe, Cu//△Mn, Pb
8. 深青	堅ったドーナツ状を示す。流れは読みににくいが、丸に平行して並ぶ部分がある。一引伸ばし。	④Si//ONa, Mg, Al, K, Ca, Ti, Fe, Cu//△Mn, Pb
9. 深青	やや暗めの太粒状を呈する。透明度は高く、気泡は少なく独立したものが散在し、流れは読みにくい。難像は丸に平行して並ぶように見える部分がある。一引伸ばし。	④Si//●Na//OAl, K, Ca, Fe, Cu//△Mg, Ti, Mn, Pb
10. 深青	堅ったドーナツ状を示す。気泡はほぼ規則性はない散在がある。難像が丸く介在物が平行して筋状に見える部分がある。一引伸ばし。	④Si//●Na//OAl, K, Ca, Fe, Cu//△Mg, Ti, Mn, Pb
11. 深青	平面形で歪な横円柱状となる。気泡は少なく独立したものが散在し、流れは読みにくい。難像が丸く介在物が平行して筋状に見える部分がある。一引伸ばし。	④Si//ONa, Mg, Al, K, Ca, Ti, Fe, Cu//△Mn, Pb
12. 緑	球形に歪いた状態。黄色やオレンジの微細な介在物が多数入り混じて見える。介在物は孔の長軸方向に並ぶ。一引伸ばし。	④Si//●Al//ONa, K, Ca, Fe, Cu, Pb//△Mg, Ti, Mn, Pb
	やや歪めのドーナツ状を呈する。大型の気泡が破裂し欠損した箇所があり、孔内側に割れ面が覗かれる。黄色や白の微細な介在物が多い入って混じて見える。介在物は孔の長軸方向に並ぶ。一引伸ばし。	④Si//●Al//ONa, K, Ca, Fe, Cu, Pb//△Mg, Ti, Mn, Pb
13. 緑	全体として歪な横円柱状となる。気泡は規則性はない散在する。不規則なブロック状界面が観察され、所々に石英粒が散入。一極型	④Si//ONa, Al, K, Ca, Fe, Cu//△Ti, Mn
14. 深青	やや歪めの太粒状を呈する。気泡は少なく透明度が低いため読みは読みにくい。難像が丸に平行して筋状に見える部分がある。一引伸ばし。	④Si//ONa, Al, K, Ca, Fe, Cu//△Ti, Mn
15. 深青	堅った太粒状を呈する。気泡は少なく透明度が低いため読みは読みにくい。難像が丸に平行して筋状に見える部分がある。一引伸ばし。	④Si//●Na, Al//OK, Ca, Fe, Cu, //△Mg, Ti, Mn, Pb
16. 青	堅った太粒状。透明度が低い。気泡は丸の長軸に沿って伸びたものが散在する。一引伸ばし。	④Si//●Na, Ca//OAl, K, Fe, Cu, //△Mg, Ti, Mn, Pb
17. 深青	片側小孔が斜めになつた形状。気泡は丸の長軸に沿って伸びたものが見られる一方、外表面に凹凸部分では不規則に散在し、流れが読みえない部分もある。一引伸ばし。	④Si//●Na, Ca//OAl, K, Fe, Cu, //△Mg, Ti, Mn, Pb
18. 青	厚みのあるドーナツ状を呈する。透明度が低い。気泡は多くが独立、散在の孔の長軸方向に並んで並ぶ。一引伸ばし。	④Si//ONa, Al, K, Ca, Fe, Cu//△Ti, Mn, Pb
19. 深青	丸みを帯びた形状。透明度が低い。気泡は少なく流れは読みにくいが、介在物？が孔の長軸に平行して並ぶ。一引伸ばし。	④Si//●Na//OAl, K, Ca, Fe, Cu//△Ti, Mn, Pb
20. 青	厚みのあるドーナツ状を呈つた形状。気泡は多く独立、散在するものの孔の長軸に平行して並ぶ。一引伸ばし。	④Si//ONa, Al, K, Ca, Fe, Cu//△Ti, Mn, Pb
21. 深青	片側小孔が斜めになつた形状。気泡は丸の長軸に沿って伸びたものが見られる一方、外表面に凹凸部分では不規則に散在し、流れが読みえない部分もある。一引伸ばし。	④Si//●Na, Ca//OAl, K, Fe, Cu//△Mg, Ti, Mn, Cu, Pb
22. 深青	比較的堅った形状。気泡は丸の長軸に沿って伸びたものが見られないほど読みない。一引伸ばし。（去法去（の推定））	④Si//ONa, Mg, Al, K, Ca, Ti, Fe, Cu//△Mn, Pb
23. 深青	比較的堅った厚みのある形状。気泡または介在物が孔の長軸に沿って伸びたものが見られる一方、外表面に凹凸部分では不規則に散在し、流れが読みえない部分もある。一引伸ばし。	④Si//●Na, Ca//OAl, K, Fe, Cu//△Mg, Ti, Mn, Pb
24. 深青	丸みを帯びた形状。透明度が低い。気泡は少なく流れは読みにくいが、介在物？が孔の長軸に平行して並ぶ。一引伸ばし。	④Si//●Na//OAl, K, Ca, Fe, Cu//△Mg, Ti, Mn, Pb
25. 深青	斜めになつた形状。透明度が低い。気泡は丸の長軸に平行して伸びたものが見られる。一引伸ばし。	④Si//ONa, Al, K, Ca, Fe, Cu//△Mg, Ti, Mn, Cu, Pb
26. 青	丸みを帯びた形状。透明度が低い。気泡は多く流れは読みにくいが、介在物？が孔の長軸に平行して並ぶ。一引伸ばし。	④Si//●Na, Ca//OAl, K, Fe, Cu//△Mg, Ti, Mn, Pb
27. 深青	やや厚みを帯びた形状。透明度が低い。気泡は少なく流れは読みにくいが、僅かに見え隠れ介在物？が孔の長軸に平行する部分が見える。一引伸ばし。	④Si//●Na, Al//OK, Ca, Fe, Cu//△Mg, Ti, Mn, Pb
28. 深青	やや厚みを帯びた形状。透明度が低い。気泡は少なく流れは読みにくいが、僅かに見える介在物？が孔の長軸に平行する部分が見える。一引伸ばし。	④Si//●Na, Al//OK, Ca, Fe, Cu//△Mg, Ti, Mn, Pb
29. 深青	丸みを帯びた形状。透明度が低い。気泡は多く流れは読みにくいが、介在物？が孔の長軸に平行して並ぶ。一引伸ばし。	④Si//●Na//OAl, K, Ca, Fe, Cu//△Mg, Ti, Mn, Pb
30. 深青	斜めになつた形状。気泡または介在物が孔の長軸に沿って伸びたものが見られる一方、外表面に凹凸部分では不規則に散在し、流れが読みえない部分もある。一引伸ばし。	④Si//●Na, Ca//OAl, K, Fe, Cu//△Mg, Ti, Mn, Pb
31. 青	堅面張りを帯びた形状。気泡または介在物が孔の長軸に沿って伸びたものが見られる一方、外表面に凹凸部分では不規則に散在し、流れが読みえない部分もある。一引伸ばし。	④Si//●Na, Ca//OAl, K, Fe, Cu//△Mg, Ti, Mn, Pb

④主要元素

- 主要元素に次ぐもの
- マークして明確に確認できるもの
- △マークが脆弱なもの



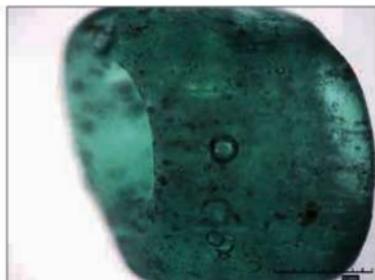
No.01



No.04



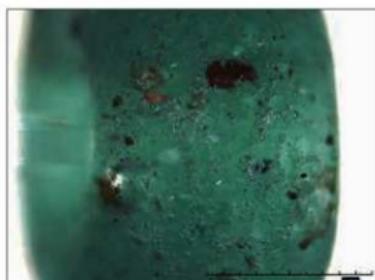
No.06



No.17



No.10



No.10(側面拡大)



No.14



No.14(側面拡大)

ガラス小玉のデジタルマイクロスコープ画像



(1) 調査区全景（Ⅰ区） 南西から



(2) 調査区全景（Ⅱ区） 南西から



(3) 古墳周溝 南西から



(4) 方形周溝状遺構 南東から



(5) 1号住居跡 南東から



(6) 1号住居跡竪 南東から



(7) 4号土坑 東から



(8) 4号土坑ガラス玉出土状況 東から



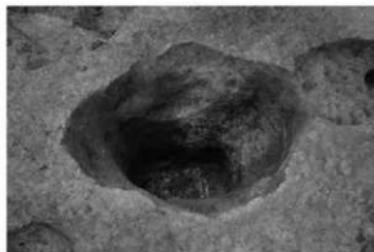
(9) 古墳周溝（14号溝） 西から



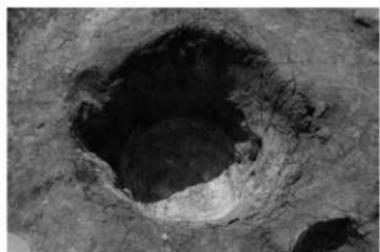
(10) 古墳周溝（15号溝） 南から



(11) 15号溝遺物出土状況 南から



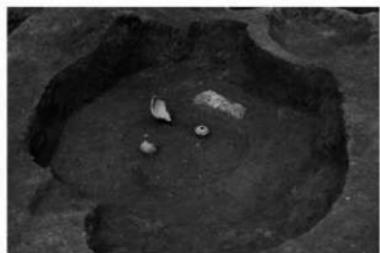
(12) 7号土坑 東から



(13) 1号井戸 南から



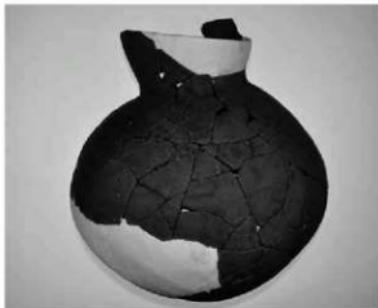
(14) 1号井戸土層断面 南から



(15) 1号井戸遺物出土状況 南から



(16) 1号土坑遺物出土状況 東から



(1) 遺物 1



(2) 遺物 5



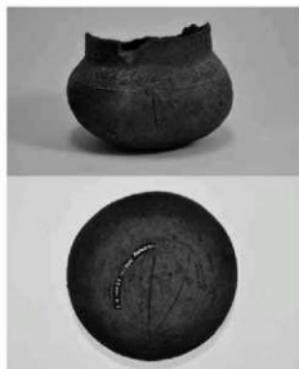
(3) 遺物 24



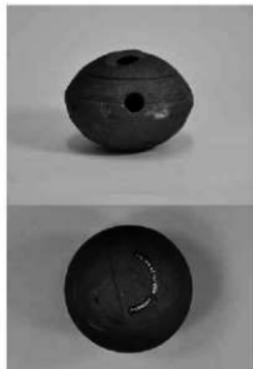
(4) 遺物 51



(5) 遺物 53



(6) 遺物 55



(7) 遺物 60



(8) 遺物 59



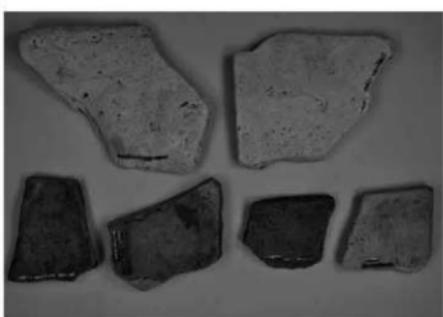
(9) 遺物 63



(10) 遺物 64



(11) 遺物 65



(12) 遺物 68 ~ 73



(13) 遺物 87



(14) 遺物 85



(15) 遺物 91



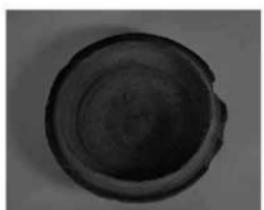
(16) 遺物 103



(17) 遺物 107



(18) 遺物 108



(19) 遺物 116

報告書抄録

ふりがな	なか 79							
書名	那珂 79							
副書名	那珂遺跡群第171次調査報告							
シリーズ名	福岡市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第1364集							
編著者名	中國将祥							
編集機関	福岡市教育委員会							
所在地	〒810-8621 福岡市中央区天神1-8-1							
発行年月日	2019年3月25日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯	東経	発掘期間	発掘面積 m ²	発掘原因	
なかいせきぐん 那珂遺跡群	ふくおかしひかたなか 福岡市博多区那珂 1丁目 806、807 808、809番	40132	85	33° 34' 16"	130° 26' 06"	20170605 ~ 20170922	1,046	記録保存調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
那珂遺跡群	集落	弥生時代~中世	古墳周溝 住居跡 井戸 溝 上坑 ピット	弥生土器 須恵器 土師器 石器 陶磁器 ガラス玉	古墳の周溝を検出			
要約	本調査地点は、那珂遺跡群の中央部、那珂八幡古墳の北西部に位置する。今回の調査で確認された遺構は、古墳周溝・住居跡・方形周溝状遺構・区画溝・井戸・土坑・ピットなどがあり、特に注目すべきは、14号溝・15号溝で構成される古墳の周溝である。時期は那珂八幡古墳より時期を後にする古墳時代初頭と考えられる。主体部を含む南側の大半が後世の掘削により失われており、残存部分は2割程度であるが、隣接する那珂八幡古墳との関連性など、古墳時代初頭の那珂八幡古墳周辺の景観を考える上で重要な資料となった。							

那珂 79

—那珂遺跡群第171次調査報告—
福岡市埋蔵文化財調査報告書第1364集

2019年（平成31年）3月25日発行

発行 福岡市教育委員会
福岡市中央区天神1-8-1
印刷 福岡印刷株式会社
福岡市博多区東那珂1-10-15

